

平成 28 年 11 月 28 日

全学教育科目に係る授業アンケート結果を受けての報告書について

高等教育推進機構長 新田 孝彦

北海道大学では、平成6年より全学教育科目の授業アンケートを実施するとともに、その結果を授業担当教員にフィードバックすることによって、授業改善に取り組んできました。しかしながら、アンケート結果に対して、個々の教員がどのように対応したか、どのような意見をもっているかに関しては、平成 17 年度の試行を除いて、公表してきませんでした。

一方で、近年、授業アンケート結果を踏まえて、PDCA サイクルにしたがって、継続的に授業改善を行うこと、またアンケートに協力した受講学生への回答を通して透明性を確保することなどが求められています。そうした点を考慮しつつ、平成 26 年度、全学教育専門委員会の授業評価専門部会では、対応策を検討し、授業アンケートの結果については、各科目責任者が中心となって報告書を作成し、公表することを決定しました。その後、各教員に報告書の作成を依頼したところ、27 科目 48 名から報告書が提出されましたので、上記の趣旨を勘案しながら編集の上、全学教育専門委員会の議を経て、学内に限定して、ホームページに掲載しました。

なお、授業科目のうち、一般教育演習、主題別科目、総合科目に関しては、科目責任者を中心に議論することが困難なため、個々の教員が報告書を作成しました。

今年度も、引き続き、平成 27 年度の授業アンケート結果を受けての報告書作成の作業を行い、教員より提出のあった 31 科目 49 名の報告書について、同様にホームページに掲載することとしました。

なお、掲載に際しては、科目ごとにまとめることとし、講義題目は明示せず、評点、順位、学部名、個人名についても、明記していません。また、内容についても、事前に担当者の了承を得たものに限って掲載しました。今後の授業改善などに役立てていきたいと思っております。

最後に、本授業アンケートの実施ならびに報告書の作成に際しては、関係各位に多大なる協力を得ました。ここに深く感謝申し上げます。

目 次

科目名等	ページ		
【主題別科目】		入門微分積分学	29
思索と言語	1	数学概論(級数入門)	29
社会の認識	2	物理学 I	29
科学・技術の世界	3	物理学 II	30
		化学 I・II	31
【総合科目】		生物学 I・II	33
人間と文化	4	地球惑星科学 I・II	34
健康と社会	4		
【一般教育演習】	5	【日本語及び日本事情に関する科目】	36
【共通科目】			
体育学B	11		
情報学	11		
【外国語科目】			
英語 I～IV	13		
中国語 I・II	15		
ドイツ語 I・II	16		
【外国語演習】			
英語演習	17		
中国語演習	19		
外国語特別演習	20		
【文系基礎科目】			
人文・社会科学の基礎	21		
【理系基礎科目】			
線形代数学 I	27		
線形代数学 II	27		
微分積分学 I	27		
微分積分学 II	28		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【主題別科目】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名: 思索と言語					
1	・質問項目: 「教員は効果的に学生の参加(発言, 自主学習, 作業など)を促した。」	毎回, 事前に予習を課し, それに基づいた授業を行った。授業では, 最初にグループ討論・発表を行い, その内容を踏まえて講義するとともに, 最後に復習のための作業を課した。	今後も, こうした工夫を継続していきたい。	予習→授業→復習のサイクルを確立することによって, 学生に, 理解度の深化を自覚させるとともに, 学習意欲を向上させることが重要だと思われる。	
2	・質問項目: 「黒板, 教科書, プリントやAV 機器等の使い方が効果的であった。」	授業では, 教科書とプリントとを適切に用いるとともに, 板書とスライドとを効果的に使い分け, 学生が内容を理解しやすく, 同時に興味関心をもてるような工夫をした。	今後も, こうした工夫を継続していきたい。	教科書とプリント, また板書とスライドなど, それぞれ一方に頼るのではなく, バランスよく使い分けることによって, 学生の理解度は深まると思われる。	
3	・自由意見: 「自分の授業中に出した意見や課題のレポートなどに對して, しっかり対応してもらえる点。」	グループ討論・発表に関しては, 各々に助言するとともに, それを踏まえて講義した。またレポートは, 添削した上で, 個別に面談しながら返却した。	できるだけきめ細やかな指導につとめた。履修者数にもよるが, 少人数の場合は, こうした取組を継続していきたい。	学生の発言, レポートに対しては, できるだけ丁寧に対応することが重要だと思われる。	
4	・自由意見: 「もう少しディスカッションしてみたかった。」	授業の約半分の時間をグループ討論・発表に割いたが, 学生はさらにディスカッションすることを望んでいる。	90分授業の中で, 現在の授業形態をとりつつ, グループ討論・発表の時間を増加するのは至難の業である。ただ, 反転授業など, 新たな教育方法の可能性も探りたい。	特になし。	
5	・質問項目: 「教員は効果的に学生の参加(発言, 自主的学習, 作業など)を促した。」	学生同士で議論する時間をもうけたことが好評だった。自分の意見を相対化し, よりよく表現する訓練となったようだ。	毎回, 学生を小グループに分け, 議論する時間を設けた。	学生を小グループに分けて議論させるのは効果的。クラス全体での討論も活発化する。	
6	・自由意見: 「ただある哲学者に関する講義を聞きよりも, その人がテーマとして置いた出来事について各自で議論してから説明に入るので理解が深まった。」	学生同士で議論させてから講義を行ったことが評価された。	何が問題なのかを意識させた上で, 学生同士で議論させてから講義を行った。	講義のポイントになる点をあらかじめ議論させてから講義に入ると, 理解が深まる。	
7	・自由意見: 「授業の開始時に配られる用紙の使い方がよくわからなかった。」	配布する用紙に書くべきことを明確化すべき。	毎回, 用紙を配って感想・意見・質問などを書かせた。	用紙を配る場合は, 何を書くべきなのか, 課題をはっきりさせる。(単なる出欠調査なのか, 感想等を求めているのか。)	
8	・自由意見: 「論文の個別添削指導・グループ討論を行ったのがよかった。」	課題を与えて論文を1学期中に3回提出させ, 毎回一人5分程度の面談指導を行ったこと。	添削指導を継続したい。	論文を添削して返却するだけでなく, 一人一人に面談でフィードバックを行うことには十分な効果がある。その待ち時間を無駄にしないために, 課題を与えて4名前後のグループで討論させたが, これも効果があるだけでなく, 学生にと	

				とても楽しかったようである。	
9	・自由意見: 「内容が難しかった。」		実際に本格的な哲学的議論に触れてもらうように授業を計画しているので、「難しい」というのは予想される感想であるが、「難しいが面白かった」という感想になるように、前半と後半の内容の関係をわかりやすくして、話の進め方を工夫したい。		
10	・自由意見: 教員の熱意が伝わる、わかりやすく丁寧とする意見がある一方、声が小さく聞き取りにくいとの意見があった。	教科書を中心としつつ、記載のない点についてスライドや自身の経験を交えて話した点は評価された。声の大きさは、マイクを用いることで解消されているかと思うが、なお改善したい。	授業内容の理解度について、受講者に質問・確認したり、小テストを実施するなどの工夫を行う。	スライドを作りすぎるので、厳選した上で、授業をすすめるのがよいかと思う。	
科目名: 社会の認識					
1	・自由意見: 「グループワークでいろいろな人と意見交換できた。」	グループワークは評判がいい。もっとやってもいい。組み合わせも変えたのも良かったようだ。	グループワークをもっと増やす。	グループワークは学生にいい刺激となるようである。	
2	・自由意見: 「プレゼンの機会があつてよかった。」	プレゼンの機会は意外に負担ではない。	プレゼンの機会を増やす。	準備の時間を与える必要もある。	
3	・自由意見: 「授業のテーマを超えて、広く問題提起や解決法の考え方を学んだ。」	問題解決への高い意識が学生にはあるので、それを引き出すことが重要だと思った。	実社会で起きていることを深く知ってもらうことで、問題意識も高まる。	学生の視野、世界をどれだけ広げられるか。考え方を教えるという発想が重要かもしれない。	
4	・自由意見: 「現場を経験した生の声が聞けた。」	なるべく実体験したテーマを扱うことにしていたことが良かった。	世の中の本質に迫る活きたテーマを常に探していく。	どう面白い今日的テーマ、トピックを選ぶかが重要。	
5	・自由意見: 「新しい視点を知れた。」	学生の知らない企業の現場経験なども刺激になっているようである。	学生は、企業の現場で起きていること、実態についての感覚がないが、それに触れることで社会への関心も高まる	経済や企業の実態には学生は興味がある。	
6	・自由意見: 「少人数で議論ができた。」	なるべく発言させることが重要。インプットするより、アウトプットさせることで学ぶことも多い。	インプットでなくアウトプットを中心とした授業をどう進めるかが重要と考える。	国立大学ならではの少人数の参加型にしていくことが大事。教室はもっと小さくてもいい。	
7	・質問項目: 「教え方が分かり易く、今後にとっても役立つ授業内容であった。」	学生の学びたいことを的確に教えることができた。	更に学生の学習意欲に応えられるように講義の内容を構成したい。	一方的に教えるのではなく、学生と交流しながら授業を進める。	
8	・自由意見: 「もっと多くの受講者と一緒に勉強したかった。」	科目名を、講義の内容が学生に伝わり易いものにした。	もっと講義内容が伝わり易い科目名を用いたい。		

科目名: 科学・技術の世界				
1	・自由意見: 「ミニ実験のようなものがあり楽しめた。」(類似した意見多数)	学生は特に心理学に体験を求めているようであり、そのため、1回の授業に1回は、実験のデモンストレーションや性格検査などを盛り込んだ。	今後ともこのやり方を継続し、さらに、興味を持ってもらえるようなデモンストレーションを工夫していきたい(2016年度もいくつか新しいものを取り入れた)。	
2	・自由意見: 「毎回レジュメが配られて授業内容が理解しやすかった。レジュメが適切だった。スライドの内容をプリントして渡してくれる。」 「レジュメの書き込み部分が増えたと眠くならない。スライドとレジュメが一緒に眠くなった。」	スライドの内容を書き写すことに意識が向きすぎると、話に集中できなくなると考えて、スライドのプリントを配布した。これは効果的だったが、書き込みする作業が少なくなった分、眠くなるという意見も寄せられた。	スライドの内容をそのままプリントで配布するのではなく、重要な用語などの箇所を空欄にし、書き込みをさせるようにした。学生の様子を見てみると、聞くことと書くことのバランスが良かったように感じる(寝る者も少なくなったような気がする)。	
3	・自由意見: 「ディスカッションがあったので、講義を受けるだけではなく、自分でも考える機会があったのでよかったです。」 「ディスカッションの時間をもう少しとってほしい。」	・H27年度は少人数のグループに分けてディスカッションを実施し、学生一人ひとりの参加を促した。 ・毎回授業の最後に疑問点をレポートに書いてもらい、ディスカッション時に回答するようにした。	・H28年度は春・夏ターム各2回、合計4回ディスカッションを実施し、1つのテーマについてより時間をかけディスカッションできるように改善する。	
4	・自由意見: 「色々な分野について学べた点。」 「オムニバス形式なので毎授業新しい内容を聞けて面白かった。」	・講義内容が、あまりに専門的で、ほとんどの学生には理解ができなかったと思われるという意見があった。	・講義内容を噛み砕いて説明するよう改善する。	
5	・自由意見: 「全ての授業でスライドのコピーを配布していただきたいです。」	・著作権に抵触しないよう、講義資料の配布については努めている。		
6	・自由意見: 「毎回色んな話が聞けるのは楽しい。もっとディスカッションしたい。」	授業の内容ごとに時間を区切り「テーマディスカッション」として討論形式を導入し、学生からの意見を出させるようにしている。	今年度はグループ形式を中心に行った。グループ内での評価方法を検討したい。	
7	・自由意見: 「オムニバス形式で様々なトピックにふれることができた点。興味を抱きやすいような様々な疑問を与えてくれた点。」	研究院の中の若手教員を中心に、なるべく身近な科学に関連した話題提供してもらった。	来年度も関連科目と連携するようにし、オムニバス形式でも、幾つかのトピックが関連、有機的な結びつきが理解できるようにする。	
8	・自由意見: 「テーマディスカッションでの時間配分を改善した方が良くと思う。」	授業の内容ごとに時間を区切り「テーマディスカッション」として討論形式を導入している。	テーマディスカッションの回数を増やして、1回あたりの時間を増やしてみた。	
9	・自由意見: 「基礎知識の有無が大きく左右するので、短い時間でいいので基礎の復習時間がほしい。」	基礎知識の有無に関しては興味を持った講義を選びさらに深く勉強させるために、レポート提出を行った。	提出したレポートに関して、テーマディスカッションごとに「ベストレポート」と称し、その内容、まとめ方など、評価し、学生同士の学力についてもコメントするようにした。	

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【総合科目】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名：人間と文化					
1	・質問項目： 「教員の熱意が伝わってきた。」	オムニバス形式の授業だったため一教員のコマ数が少なかったが、それが逆に内容や熱意を凝縮することになったように思う。	オムニバス形式の授業を今後も継続する予定。	多角的な授業内容になる以外にもオムニバス形式のメリットが存在することが分かった。	
2	・自由意見： 「これまで意識していなかった問題意識が芽生えた。」	北海道大学で学ぶ学生にアイヌ民族についての基礎知識を多角的に伝えることができた。	身近な事例から講義内容を広げていくことの効果を実感し、そのような導入トピックを増やす予定。	北海道という場所についての意識化を促すことは、他の講義でも有効だと思う。	
科目名：健康と社会					
1	・質問項目： 「教員は効果的に学生の参加を促した。」	一方向性の講義から双方向性の講義への転換をするべき。	事前に課題を与えておく。一部、レポートの質問に基づいた講義を行っている。	履修名簿を参考にして○○さんと呼びかける。	
2	・自由意見： 「テーマがとても身近であり、日常的に心がけることを勉強できた。」 「毎回様々な専門家の方がいらっしゃって、幅広い話を聞いたのがよかった。」	食の生産・流通から、健康食品、食と健康との関連、食品衛生まで、幅広く講義できた。	毎年同じ内容にならないように、統計データを更新して臨んだ。	学内各部署と学外の教員、専門家にも講義を依頼し、最新の知識を教授してもらった。	
3	・自由意見： 「内容をもう少し専門的にしてもよいと思う。」	文理共通の講義であり、高校レベルの内容もあったが、もう少しテーマを掘り下げて紹介するべきかもしれない。	講義テーマの切り口を、課題提供型にするべき。講義では英語の文献も紹介して、説明している。	積極的に英語論文を提示して、それに基づいて説明していく。	

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【一般教育演習】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
1	・質問項目: 「黑板,教科書,プリントやAV機器等の使われ方が効果的であった。」	学生が作成したスライドのアニメーションが教員のPCでうまく動作しなかった。	アニメーションはPCのOSやアプリケーションのVer.によっては動作しない可能性があることをあらかじめ伝えておく。	どのようなPC環境で発表するかあらかじめ学生に伝え、スライド作成時に注意事項として説明する。	
2	・自由意見: 「文系でも参加できるよう難易度を調節してくれたところが良かった。」	学生の所属や履修状況に応じて課題の難易度を調節した点。	学生が文系・理系のどちらであるか、所属学部は何かについて最初の授業で把握した。	所属や履修状況の異なるそれぞれの学生に適した難易度の課題を与えられるよう工夫すること。	
3	・自由意見: 「様々な話を聞いて良かった。」(多数)	延べ7名がそれぞれの専門と興味に応じてわかりやすく説明したことが評価された。	この体制を続けたい。	1年生は多くのことに興味を持っているのでその火を絶やさないようにしたい。	
4	・自由意見: 「リレー方式の授業で飽きがない。」	特定の分野にフォーカス当てるのではなく、幅広い内容を授業で取り扱った。	今後もこの形式を採用する。		
5	・自由意見: 「プロジェクターを使ってくれて、わかりやすかった。」	視覚に訴える授業を行った。	今後もこの形式を採用する。		
6	・質問項目: 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。」	授業中の対応はたぶん十分ではなかったと思うが、コメント票に対して細かく対応したことが評価されたものと思われる。	今年度も、継続して実施中。	次の授業までの短い時間で全員に対応するにはそれなりのロードは必要である。ただ、教員の流した汗に見合う分だけ学生は反応してくれると思う。	
7	・質問項目: 「授業で要求される作業量は適切であった。」	半期で発表2回、レポート1回は十分ハードなレベルであるという認識はある。	この課題をクリアすることによって、学生に自信が持てるようになると思う。それが「授業は全体として満足できるものであった」という評価につながっていると思う。	自由意見にも「いきなり大変だったわけではなく最初の輪講から徐々に掘り下げていくことで無理なく学習から準備を行えたところが良かった」というコメントがあり、きちんとこちらの意図が伝わっていたことがわかり嬉しかった。	
8	・自由意見: 「調べ学習のために図書館学入門があった点。」	図書館情報入門の授業を、この授業のために有益に取り入れられた点。	今年度も、継続して実施中。	図書館情報入門が他の科目でどれくらい取り入れられているかわからないが、何もわからないうちに受講させるよりは一回学生に苦勞を体験させてから受講させると、吸収力が変わるようである。	
9	・自由意見: 「授業に使うPowerPointの投影用のPCでPowerPointがうまく動作しない場面があることは気になりました。」	おっしゃる通りです。	Windows10に対応するPCを今年度は使用するようになっている。		

10	・自由意見: 「試験の時期にレポート作成の時期が重なるので少し難であるが、それ以外の点については全く問題ない。」	スケジュール的に仕方がない。	むしろその時期にきちんとレポートに向き合ってくれたことがわかり、良かったと思った。		
11	・自由意見: 「教師から、もっと授業をしてもらいたい。」	授業の最初にその旨は伝えてあり、学生自身が授業をするのがこの科目であることは宣言しているので、その意図が伝わっていなかったと思われる。	こうした意見が出てくるのは、少し残念であった。今年度はそのようなことが無いようきちんと伝えていきたい。		
12	・自由意見: 「発表の準備期間が短い。」 「忙しいが、得るものが多い授業であり、コマ数を増やしても良いと思う。」	スケジュールの関係上仕方がないことであるが、少しずつ難易度をあげていくためには時間が必要。	今年度は、もう少し厳しいスケジュールになってしまっている。どのくらいまで学生がついて来られるか試行錯誤中。	コマ数を増やすのは現実的ではないが、もう少し時間を有効に使えるプログラムを考える必要があるかもしれない。	
13	・自由意見: 「終わる頃にはみんな仲良くなっていたので、協力してやることは大事だなと感じました。」	大きく入り試で取り入れたクラス構成に加え、こうした全学教育科目があれば、2年生以降学科を超えた知人のネットワークができるのではないかと思い、意図的に班編成をシャッフルしている。	今年度も、継続して実施中。	積極的にそうした機会を設けてあげたい。	
14	・質問項目: 「教員の熱意が伝わってきた。」 「授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。」	複数教員がそれぞれの専門分野の内容を、初学者に解りやすく指導した点が評価されたと思われる。	毎年、様々な専門の教員に演習に協力してもらうのは大変なのだが、今後も継続していきたい。	異なる専門分野の教員が協力して授業を行うことで、教育に関して相乗効果が生まれることがあるようだ。教員も他の教員の知識や指導法を学ぶことができる。	
15	・自由意見: 「体力的に大変・傾斜がきつい。」 「フィールドワークをもっと増やす。」	経験がまちまちの全学部1～2年生対象の野外演習科目なので、どうしても大変過ぎると感じる学生と、物足りないと感じる学生が出てしまうのは致し方ないと考えている。	平均的な学生をターゲットにした内容にしつつ、ついていのが大変な学生に対してはスタッフが個別に気をつけるようにする。		
16	・自由意見: 「普段できない様々なフィールド体験ができた。」	多様なフィールド体験メニューを用意したこと。	今後も多様なフィールド体験ができるような実習スケジュールを企画する。		
17	・自由意見: 「他大学と交流できたのが良かった。」	他大学生を演習に受け入れたこと。	文部科学省教育関係共同利用拠点事業を利用したり、包括的連携協定を結んでいる和歌山大学に呼びかけて、他大学生に参加募集をかけている。	講義等で他大学生と一緒に学ぶ機会がないためか、他大学生と一緒に演習を参加することは北大生にとってもよい刺激になるようだ。	
18	・自由意見: 「毎週面白かった。」	楽しい授業になるよう心掛けた。	継続予定。	私は、楽しい授業の方が好きですが、本当はもっとよいやり方があるのかもしれない。	
19	・自由意見: 「レジュメがわかりやすかった。」	わかりやすい資料を作成するよう心掛けた。	継続予定。	資料はわかりやすい方がいいです。	
20	・質問項目: 「授業内容の難易度は適切であった。」 ・自由意見: 「難易度は高いが自分で調	難易度が難し過ぎるという指摘があった。逆に、一見難解なものを能動的学習により少しずつ理解できる過程を楽しむた学生もいた(これが本来	興味のある専門的な論文を学習により少しずつ理解していく体験してもらおうという試み自体は、うまく機能した学生もいれば、そうでない学	受講者全員に分かりやすい講義・演習は、逆に内容に乏しいものになりがちなので、難易度と内容の濃さのバランスをとっていくのが大事だと考	

	べてプレゼンするという能動的な授業で楽しかった点。専門的な分野だが自分の興味のあることを学べる点。」	のねらい)。	生もいたので、もう一段階難易度を下げて同様の試みすることを検討したい。	えている。	
21	・質問項目: 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。」 ・自由意見: 「先生に質問した場合にやさしく教えてくれたこと。」	教員が学生の質問・発言に適切に対応したという評点が比較的高かった。やさしく教えてくれたのが良かったとの自由意見もあった。	今後も学生の質問に丁寧にやさしく答えられるように続けていきたい。	本授業では、学生の発表や学生からの質問をベースに進めていく形式なので、学生からの質問には丁寧に答えていたつもりであるが、評点や自由意見を見ると、その点については誠意が伝わっていたように感じている。	
22	・自由意見: 「議論に消極的な人にも意見を言ってほしい。」	議論に加わりにくい学生への対応が、要改善点と思われる。	教員が発言を促したり、学生の座る場所(隣になる学生)が毎回異なるように、予め座席を指定することで、様々な学生と議論しやすいようにする。		
23	・自由意見: 「生物未履修者でもわかりやすかった。」	生物未履修者向けに資料を配布したり、生物履修者にも生物未履修者への配慮を促した点が、評価されたと思われる。	引き続き同様に対応する。		
24	・質問項目全般	前年度と比べて全体的に授業の質が改善された。	さらなる改善のため、グループ・ディスカッションのテーマ、回数について再検討する。	学期を通して気づいた授業の問題点をその都度メモしていき、15回の授業終了後に検討することにより、次年度に向けて授業改善を図る。	
25	・自由意見: 「1回目の模擬授業の反省を生かした2回目の模擬授業をしたかった。」	受講生全員に複数回の模擬授業を課す場合、1回あたりの時間を短くしたり、グループ・ディスカッションを削ったりする必要がある。	今後、模擬授業メインで授業計画を立てることを検討中。		
26	・自由意見: 「グループワークでいろいろな人と意見交換できた。」	グループワークは評判がいい。もっとやってもいい。組み合わせも変えたのも良かったようだ。	グループワークをもっと増やす。	グループワークは学生にいい刺激となるようである。	
27	・自由意見: 「プレゼンの機会があってよかった。」	プレゼンの機会は意外に負担ではない。	プレゼンの機会を増やす。	準備の時間を与える必要もある。	
28	・自由意見: 「授業のテーマを超えて、広く問題提起や解決法の考え方を学んだ。」	問題解決への高い意識が学生にはあるので、それを引き出すことが重要だと思った。	実社会で起きていることを深く知ってもらうことで、問題意識も高まる。	学生の視野、世界をどれだけ広げられるか。考え方を教えるという発想が重要かもしれない。	
29	・自由意見: 「毎回、生徒の感想や意見を公表した。」	授業ごとに紙を配って意見を集めた。教員が学生の反応も知ることができて良かった。	引き続き、授業ごとに、印象に残った言葉や内容、感想を求める。	学生とのコミュニケーションの取り方の一つにはなる。	
30	・自由意見: 「現場を経験した生の声が聞けた。」	なるべく実体験したテーマを扱うことにしていたことが良かった。	世の中の本質に迫る活きたテーマを常に探していく。	どういう面白い今日的テーマ、トピックを選ぶかが重要。	
31	・自由意見: 「新しい視点を知れた。」	学生の知らない企業の現場経験なども刺激になっているようである。	学生は、企業の現場で起きていること、実態についての感覚がないが、それに触れることで社会への関心も高まる	経済や企業の実態には学生は興味がある。	

32	・自由意見: 「理系でも経営の内容を学べた。」	企業での経験を踏まえ、経営や経済への理解を深めてもらった意義は大きい。	理系でも経済や経営とは無縁ではありえず、早くから、起業家精神に触れることが重要と考える。	起業家精神や社会的起業などビジネスについて学ぶニーズは高いと感じる。
33	・自由意見: 「少人数で議論ができた。」	なるべく発言させることが重要。インプットするより、アウトプットさせることで学ぶことも多い。	インプットでなくアウトプットを中心とした授業をどう進めるかが重要と考える。	国立大学ならではの少人数の参加型にしていくことが大事。教室はもっと小さくてもいい。
34	・自由意見: 「論文指導で、一人ひとりが説明をしたのは、他の人の考えを学び、文章を書く力もついた。」	やらせると何とかついてくる。発表を避ける人も一部にいる。	今後も論文をディスプレイで皆で見て、説明をしてもらう論文指導を継続する。	論文指導を個別にやるか、共有してやるか。共有も悪くないようである。
35	・自由意見: 「授業の資料(PPT)が欲しい。」	資料をもらおうと安心してしまうという側面もある。準備が大変な割に、後で見ないようにも思う。	今後検討したい。一部は配布してもいい。	配布しない方が真剣に聞く?
36	・自由意見: 「実習・実験があって楽しかった。」	学生が直接体験できる実習・実験の機会を設けた。	実験は準備・費用を必要とするが、さらに機会を増やせるよう検討する。	特になし
37	・自由意見: 「授業資料があればよりわかりやすい。」	板書の際、配布資料を準備しないことがあった。	配布資料の作成を検討する。	特になし
38	・自由意見: 「専門用語が多くわかりにくかった。」	専門用語を頻繁に用いることがあった。	専門用語を噛み砕いて説明するよう努力する。	特になし
39	・自由意見: 「議論・ディスカッションがよかった。他の人の異なる意見を聞くことができた。」	双方向の授業形態を採用した点。	学生の関心を引く内容や映像資料を活用したい。	小グループにすること、事前学習への動機付けをすること。
40	・自由意見: 「テキストの講読・要約が大変だった。」	長文読解に対する文系学生と理系学生との負担感の相違。	長文読解を苦手とする学生への支援。	文献の質・量を学生の状況を見ながら適当なところに設定すること。
41	・自由意見: 「論文の提出が前半にあって、期末の忙しい時期にかぶらなくて良かった。」 「論文の作り方を教えてもらいました。別の授業でも使える知識をもらいました。」	良かった点は、設問内容の中で、「教員の説明がわかりやすかった」と「教員の熱意が伝わってきた」だった。出席率も良かった。授業への積極的な参加や予習・復習に費やした時間は選択確平均値をはるかに上回っていた。改善点として、「授業は全体として満足できるものであった」、作業量の適切さが、選択科目平均値をはるかに下回っていた。	学生がグループで一つの論文を共同執筆するためにはどうしても課外での作業が必要になる。改善策として実施したことは、グループ分けの時期とグループ面談の時期を早めて余裕をもってグループ作業ができるようにした。次回からは、連続2コマにして、授業内で十分なグループディスカッションの時間をとれるようにしたいと考えている。	
42	・自由意見: 「論文の締切が12月だった。(他の科目のレポートと締切とかぶっていない)」 「論文の書き方を学べる点、様々なことを経験できる点。」	良かった点は、「教員の熱意が伝わってきた」、「学生の質問・発言等に適切に対応した」、「黒板、教科書、プリントやAV聞き等の使い方が効果的だった」。 改善点としては、「授業により	知的刺激については、論文作成指導に大幅な時間を割いているため、テーマに関する講義が少ないからだと考えられる。次回からは、連続2コマにして、授業内で十分なグループディスカッションの時間	

	「短いながら論文を書けたこと。要約や参考文献のまとめ方について勉強になった。」 「前は考え付かなかった視点から問題を見ることができた。先入観がなくなった。」	知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」、作業量の適切さ、難易度の適切さが選択科目平均値を下回った。	をとれるようにしたいと考えている。 作業量の適切さについても、上記と同様である。難易度については、論文の共同執筆そのものがすでに難易度の高いものである。シラバスには留意事項として、この授業で求められるものについて書いてあるが、難易度の高さについても記述したいと思う。		
43	・自由意見： 「グループ作業で協力できるようになっていた。」 「自分の興味のある話題について深く調べることができ、それについて先生からも意見を得られる点。」 「論文を実際書いて、良い経験になった。世界の見方が少し変わった。」 「前半が論文、後半がディスカッションだったのはとてもよかったと思う。」	良かった点は以下のとおりである。「教員の話し方は聞き取りやすかった。」、「シラバスにそって行われていた」、「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 改善点としては、作業量の適切さ、難易度の適切さが、選択科目平均値を下回った。	作業量の適切さについては、上記と同様である。難易度については、論文の共同執筆そのものがすでに難易度の高いものである。シラバスには留意事項として、この授業で求められるものについて書いてあるが、難易度の高さについても記述したいと思う。		
44	・質問項目： 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。」	本演習はその科目名が示しているとおりの講義中の設問に対してその場で考えて回答することを通じて化学と科学を学ぶものであり、クイズの解説による「知識の伝達」を目的としていない。したがって、クイズの内容について予習することは理解の妨げとなるため、シラバスはどのようなクイズが出題されるのかは予想できないように書かれている。したがって、この項目が比較的低いのは、講義内容についてシラバスの記述が少ないためと考えられる。	今後高い評価を得るように変更する予定はまったくない。		
45	・質問項目： 「授業はシラバスに沿って行われていた。」	各回の講義におけるクイズの内容はシラバスには書かれていないため、このような比較的低い評価となったものと思われる。	この点について変更する予定はまったくない。		
46	・質問項目： 「教員の話し方は聞き取りやすかった。」	大半の受講者が「そう思う」以上であり問題はないと考える。			
47	・質問項目： 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。」	本演習は「知識の伝達」が目的ではなく、「科学(化学)の研究とは何か」ということを理解させることに主眼をおいている。また、質問・発言は演習中ではなく、授業時間後のメール送信によって義務づけられており、それに対する回答とコメントは次回にレジメを配布して説明している。「知識の伝達を目的としない」ため、質問に対する回答は知	半数近くの受講者は講義の意図を理解して「強く思う」と答えている(「そう思う」より多い)。毎回「知識の伝達は意図しない」と説明しているにもかかわらずそれを理解しない受講者に対する対策は現時点では考えられない。		

		識の伝達にならないように配慮している。このため、この項目の評点が低いのは、講義の意図を理解できなかったおよそ4割の受講者が「どちらともいえない」「そうは思わない」と回答したためである。			
48	・自由意見 「先生がこの講義では「知識を伝達しない」ということを毎回の授業で言っていたため、この講義の意図を早い段階で分かったところ。」 「化学と科学と題がついているが、文系でも十分参可できるものであった。」等、よかったと思う点への意見。		講義の意図を理解したものであり、満足している。		
49	・自由意見： 「期末前ギリギリの再提出。」	事前にクイズの内容がインターネット上にないことを確認することを念押しし、さらにそれを提出時に確認させていたにもかかわらず、実際にインターネット上にあつたための措置。	改善の余地はない。		
50	・質問項目： 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」	できるかぎり学生が主体的に「我がこと」として活動していることが自覚できるよう努めた。	lino, Google ドライブ, YouTube を使用している。		
51	・自由意見： 「全員が発言できる環境にあったこと。留学生と日本人の壁がなかったこと。みんなが個性的でいられたこと。先生と生徒が近かったこと。色々なことが知れたこと。」	学生の主体性が存分に発揮される環境づくりに努めた。			
52	・自由意見： 「グループの枠を超えていけたらいい。」 「他のグループとの交流の機会があるといいと思う。」		グループを固定せず、途中で新しいグループを作ることにした。		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【共通科目】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名: 体育学B					
1	・自由意見: 「1つの先生の内容をもう少し詳しく知りたいと感じた。」	授業(オムニバス)担当教員の数。	昨年度は4名の教員で担当したが、今年度の授業は2名体制で実施した。	左記の内容は現在進行中の授業改善努力であり、他の教員の参考になるか否かは不明。	
2	・自由意見: 「多分野を学ぶことができた。」	体育・スポーツについて、多角的(歴史学, 社会学, 生理学, 文化人類学)に講義された点が受講生にとっては新鮮であり、それが良い評価につながったと考えている。	一方で上記のような意見もあり、今年度は2名の教員の異なる専門的立場から講義する。	左記の内容は現在進行中の授業改善努力であり、他の教員の参考になるか否かは不明。	
3	・自由意見: 「スポーツに対する考え方が変わった。最新のスポーツ科学の研究を紹介していただき、興味深い話をきくことができた。」	スポーツ科学のあるテーマを研究史的に説明したこと。	教養科目であるため、できるだけ多くの学生の興味や専門性に触れるような内容を扱う必要があると考えている。		
4	・自由意見: 「体育と関係のない内容の講義があった点。」	講義内容と体育の接点を理解させる教員側の努力が必要だと考えている。	講義内容について受講学生それぞれの興味や専門性から議論させる機会を与えると良いかもしれない。		
科目名: 情報学					
1	・質問項目: 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。」および「授業はシラバスに沿って行われていた。」	統一カリキュラムで、文系理系を問わず、行う内容が定められている点。一方、週により課題に要する時間が異なる点が改善点である。	特に前半と後半で、課題の負担がなるべく均等になるような工夫を考え、課題の負担量もしくは負担感の軽減を検討する。	講義計画が詳細に検討されており、その通りに講義が進行している点は継続する。また、わかりやすい説明について、資料を統一化して理解を深めるよう工夫すること。	
2	・質問項目: 「教員の説明はわかりやすかった。」	授業に関連する資料等の集約に加え、担当者間での質問対応について、意見交換ができるシステムを用いている点。	学生がわからないときに質問対応できるようにしており、教員の説明と課題内容を学生に噛み砕いて説明する場を設けている点。	わからない箇所についての学生の問い合わせの集約と分析をさらに進める工夫をすること。	
3	・質問項目: 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」	20名程度の少人数教育で行っている点。また、授業の中で情報倫理ビデオを用いる等、効果的なメディア利用について工夫した点。	特に情報技術は進化が早いので、現状に応じた教材を開発したり確保したりできるように計画している。	各種資料や教材の開発を行っているが、それは共通で使えるよう、統一企画に組み込むように工夫していること。	
4	・自由意見: 「TAによる指導が丁寧。」	本科目では並列での授業進行を行うため、多数TAが実習室で演習補佐を行っており、基礎的内容を幅広く取り扱うため、丁寧な説明を行っている点が評価された。但し一部、言葉遣いが悪いTAがいたとの意見もあり改善が必要である。	学生からの個別の質問に対しては、親切かつ丁寧に対応するようTAには指導しているが、言葉遣いが悪いTAがいたことに対しては、事前研修を充実することで対応するよう計画している。	わかりやすいスライドを共通で用意するとともに、TAへの研修内容についても工夫をする予定である。また、学生の理解に対するばらつき対策に検討を要する。	

5	<p>・自由意見： 「課題が多い。」</p>	<p>学生の本授業評価による平均的な授業時間外の学修時間は平均2～3時間であった(744名)。負担感を減ずるために、わかりやすい資料の提示、前半後半の負荷分散、および、学生の理解度のバラツキに応じた対応について、改善する必要があると思われる。</p>	<p>授業内容が「情報」とは関係ないように感じる、「情報」の授業で討論を行う意味がわからない、といった、本科目の本質を理解できていない学生の声もあつた。もう少し「情報学」とはなにか、「基礎情報処理演習」等ではなく「情報学」という科目名となっている意味、あるいは本科目を受ける意義に関する説明を行うことを検討している。</p>	<p>学習指導要領の変更により、学生のスキルと知識の状況が変化している可能性がある。それらの変化に応じ、授業内容についても検討を進める予定で計画を進めている。国内でも国際的でもプログラミング教育の強化が求められており、高校までの学修状況を随時確認していく。</p>	
6	<p>・自由意見： 「システムが不自由。」</p>	<p>システム更新の影響で、本来の授業システムが使用できず、やむなく、授業時のみに個別に課題提出をさせた点、また、出席等、本来使える機能が使えなかった点等。</p>	<p>システムが使えるようになったので、改善されている(H28から自宅からも課題提出可能)。但し、H28もバグは引き続き一部発生している。</p>	<p>バグが一部発生していることがあり、それらについての代替手段等の検討が必要で、それらの情報共有が有用であると考えている。</p>	

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【外国語科目】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名: 英語 I ~ IV					
1	・自由意見: 「授業頭にやる課題の制限時間・答え合わせが長くてだれる。」	時間配分を考える。	15分毎にトピックが変わるように注意する。	90分の使い方。	
2	・自由意見: 「いろいろな国の勉強ができて楽しかった。」	各国の英語の聞き取りができるような教材を選んだ点。	できるだけ北米や英国にこだわらない教材を使う。	学生に世界の多様性を理解させると同時に、考えさせること。	
3	・自由意見: 「授業の内容がかなり難しく、アイデアがなかなか浮かばなかった。」	より簡単な単語を使用するようにする。	テキストを少し簡単なものからはじめ、徐々に難しいものとする。	テキストについて工夫すること。	
4	・質問項目: 「授業で要求される作業量は適切であった。」	テキストの問題をそのまま全部実施するのではなく、学生の負担量を考慮しながら調整した。	同左		英語ⅢR
5	・自由意見: 「アメリカ文化の理解につながった。」	テキストと併せて映画の視聴の時間を毎回取った。	教材としてつくられたものだけでなく、映画、文学作品、ニュースなど「生」の英語を取り入れるようにしている。		英語ⅢR
6	・自由意見: 「声が小さい。板書の字が小さい。」	改善予定。	改善予定。		英語ⅢR
7	・自由意見: 「英語でプレゼンテーション原稿を書き、発表を行うということにはじめは抵抗があった」という意見が複数あった。	英語 I の授業を通じてプレゼンテーションに慣れることができた、普段あまり勉強できなかったことが学べて良かった、という意見が複数あった。	英語 I は高校までの英語学習とは性質の異なる発信型授業なので、学生の苦手意識が強い傾向がある。そのため本科目の意義をていねいに説明し、基礎的なことから順に積み上げて達成感を持てるように教えることを特に意識して授業を行った。		
8	・自由意見: 「知的好奇心を刺激するような話が多くあった。」	課題の英文の背景について踏み込んだ解説を行った。	今後も継続して、毎回のポイントを明確にして、準備にしっかり時間をかける。		英語 I
9	・自由意見: 「宿題が少なくて、負担が小さかった事。」	授業時間内で課題に取り組んでもらった。	他の授業とのバランスも考えながら、宿題を出しても良いと考えている。		英語 I
10	・自由意見: 「理系のクラスであれば理系の語いが強化される内容の問題だと尚よかった。」	文系の話題に傾いていた。	今後は課題も含め、文理双方に関わるようなものを選びたい。		英語 I

11	・自由意見: 「ネイティブの英語に触れる機会が増えたとし、自分からも普段、BBCのニュースなど聞いてみようと思える授業だった。英語以外にも、宗教の話をしてくれたりして、興味がわいた。」	英語の正確な聞き取りができるようにディクテーションを行った。	今後も継続して行いたい。		英語Ⅲ
12	・自由意見: 「科学から宗教まで様々な種類のニュースが聞けてよかった。」	できるだけ豊富な話題となるニュースを課題として選択した。	今後も継続して行いたい。		英語Ⅲ
13	・自由意見: 「リスニング音源を配布し欲しい。」	音源は授業だけで流した。	著作権などの都合上、音源配布は難しいと考えている。		英語Ⅲ
14	・自由意見: 「授業で読んだ論文は難しかったけれど、先生がわかりやすく説明して下さった。難しい内容ではあったけれど、興味深い話題だった。」	難易度のある英語論文をテキストに選択した。本格的な論文読解の準備を行った。	今後も継続して行いたい。		英語Ⅳ
15	・自由意見: 「自分が当たって訳をするとき、わからないところがあっても先生がヒントみたいなものを出しつつ進めてくれていたのがよかったです。」	論文の精読を促すような授業を行った。	授業時間の都合上、制限はあるが、今後も継続して行いたい。		英語Ⅳ
16	・自由意見: 「読むのがあまり早くないのでついていくのがしんどかったです。」	毎回、全員にあたるように授業を行った。	各自のペースに配慮しながら進めてゆきたい。		英語Ⅳ
17	・自由意見: 「丁寧な説明で細かくわかりやすく教えた点がよかった。」	細かいところまで丁寧に教えた点。改善を要する点としては、テストの返却が遅いことと、授業の進み方が遅かったこと。	TAを利用せずに授業を行っているので、来年度はTAを申請して活用することにより、テストの採点を毎週行う時間を確保したい。		
18	・自由意見: 「パラグラフの書き方がわかった。」「パラグラフの書き方をていねいに教えてくれた点。」	アカデミックな内容の口頭発表の基盤には論理的な文章の作成が必要であることを学生が理解してくれた。	今後も丁寧にパラグラフ・ライティングの基礎を養成するための工夫をしていきたい。		英語Ⅰ
19	・自由意見: 「暗唱でのプレゼンだったが、覚えることに精いっぱい棒読みになっている人が多かった。」 「最後のスピーチ発表は原稿を持っていてもいいようにした方がいと思いました。」	原稿が手元にあると、それを読んで終わってしまう学生が多かった過去の経験から、暗唱でプレゼンテーションをさせる方針を採用したが、達成目標の趣旨に立ち返って見なおすべきかと考える。	プレゼンテーションにおいてはオーディエンスに語りかけることが重要であるという点を徹底した上で、今学期の授業では原稿を手元に用意して発表することを認めることにした。		英語Ⅰ
20	・自由意見: 「英語で書かれた論文の読み方が分かった。」 「普段あまり扱われないニュースの話の論文が英語で難しかったけど本当に面白かった。」 「とにかく長文を読むことによって英語の感覚が身についた。」	学部進学後に必要な論文読解のための基礎的能力を要請したいという達成目標を学生がきちんと理解してくれた。	今後も English for Academic Purposes の意識を学生と共有できるような授業を工夫していきたい。		英語Ⅳ

	<p>「論理的な文章の読み方を学ぶことが出来た点。」</p> <p>「長い文章を読むのは大変かと思っていたが、本文の構造を考えて読むことで思ったよりも読みやすく感じたことがよかった。」</p> <p>「英語の論文を読み、論文の構成を学べた。」</p> <p>「学術的な英文を読解する練習になった。」</p>				
21	<p>・自由意見：</p> <p>「ただ読むだけだったので、その文章についてどう考えるかなどの意見を言い合える場があっても面白かった。」</p> <p>「前期のグループワークにも参加したが、その方が自分の意見も言える場が増え、またより深く考えられるので、そういった形式もあるとよかった。」</p> <p>「受け身の授業となっていた感じ。段落ごとに自分たちで解釈して、学生が最初に解説して、そのあと教授が再解説するのもいいと思う。」</p> <p>「先生が1人で話している時間が長すぎる点。」</p> <p>「もっと学生の参加を促すため、予習範囲を固定化して毎回担当の生徒を決め、今までのような先生の解説の前に担当の人に予習箇所の要約を発表してもらおうというのも面白いかもしれません。」</p>	<p>読解の授業なので、どこまでアクティブ・ラーニングの仕組みを取り入れることが出来るのか悩ましいところはあるが、学生がより積極的に授業に取り組めるように改善を試みたい。</p>	<p>事前に内容要約のタスクを与えた上で、授業ではグループワークを導入して意見集約の作業をさせるなどして、フリップ・ラーニング、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れて行きたい。</p>		英語Ⅳ
22	<p>・自由意見：</p> <p>「一度テキストに追いつけなくなった場合でも授業はどんどん進んでいくのでわからないところがそのままの状態の箇所がいくつかあった。」</p> <p>「進みが速すぎてどこをやっているか分からなくなるときが多かった。」</p>	<p>40人規模の授業ではひとりひとりの学生の理解度をモニターするのは限界があるが、改善の努力はしたい。</p>	<p>教員と個々の学生のやり取りだけでは限界があるので、グループワークにおいて学生の協働による理解促進を図るのもひとつの方策かと考えている。</p>		英語Ⅳ

科目名：中国語Ⅰ・Ⅱ

1	<p>・自由意見：</p> <p>「多少負担であったが、小テストのおかげで継続的に学習することができた。」</p> <p>「小テストが毎回あり、復習する気になった。」</p> <p>「前回の復習をやってくれた点。」</p> <p>「小テストの実施回数の削減」「小テストが難しかった。」</p> <p>「難易度が高い。」</p>	<p>小テストを行う、前回の復習等による授業内容の定着を評価。同時に、小テストの回数削減、難度が高いという意見もあり。</p>	<p>授業時間の問題もあるが、小テスト、前回の復習などを通じて、学習内容の定着をはかる。</p>	<p>左記の問題は授業の時間配分とも関係するが、小テスト等を通じて授業内容の定着をはかるようにする。</p>	
2	<p>・自由意見：</p> <p>「ネイティブの発音を授業の度に聞くことができた。」</p> <p>「本場の発音を聞くことができ</p>	<p>ネイティブのTAの活用が奏効している。</p>	<p>TAをさらに効果的に活用し、アクティブラーニングの充実を進める。</p>	<p>ネイティブのTAなどを使い、リスニング、発音の機会を作る。但し、クラスが40人前後と多いので、個々の発音強</p>	

	た。」			化は、演習等にゆだねざるをえない。	
3	・自由意見： 「説明がわかりやすく、ノート をとりやすかった。」 「追加でプリントなどをくばって わかりにくいところを補足説明 してくれた。」	説明の平明さ、熱意について 評価する意見が多い。詳しい 文法的な説明を求める声 もあり。	わかりやすい説明につとめ、 必要な場合は補足的資料 を配布する。	左記の認識を中国語教育 系で共有する。	
4	・自由意見： 「中国のことについてや中国 人のことも教えてくれたこと。」 「中国文化の知識を養うこと ができた。」 「中国についてもくわしく知れ た。」	語学の背後にある中国社 会、文化についての話を評 価する声あり。	極力鮮度の高い中国の話 をするよう心掛けているが、毎 課教える内容が多く、なか なか確保できない。	授業時間配分を考慮しなが ら、知的好奇心を刺激する よう心掛ける。	

科目名：ドイツ語Ⅰ・Ⅱ

1	・質問事項： 「教員は効果的に学生の参 加を促した。」	「スライドの使い方が分かりや すくて良かった」という意見も あったが、黒板を使ったほうが 分かりやすい内容もあったと 思われる。	学生の意見や反応から、スラ イドで解説すべき内容と黒板 を中心に説明すべき内容を 取捨選択している。		
2	・質問事項： 「教員は効果的に学生の参 加を促した。」	ペアワークやグループワークを 多用し、聞く・話す作業を通 して文法事項の習得を促し た点が評価されたと思われ る。	日本人どうしてドイツ語を話 すことへの抵抗感を最初に除 去する。そして学生の良いと ころを積極的に評価する。	教卓の前にずっといるのでは なく、教室全体を使う。板書 が必要になったら戻る。	
3	・自由意見： 「質問に対する回答が丁寧 だった。」	学生に積極的に質問をする よう促した。	「ふつうの顔がこわい顔」とよく 言われるので気をつけた。ま た即答できない場合はその 旨を告げ、調べて次回答え た。	学生の質問に答えられない のは恥ずかしい、という気持 ちを捨てると楽になる。	
4	・自由意見： 「映像資料が有効に使わ れ、ドイツ語圏への関心が喚 起された。」		現在の教授方法に加え、今 後は必要に応じてコンピュー タの有効利用を検討したい。 また他の教員との意見交換 もより頻繁に行いたい。もっ とも重要なことは、教員自身 の体験を示してドイツ語圏へ の関心をより前向きに喚起す ることだろう。	3～5分程度の映像資料が あると、授業で有効に活用す ることができる。	
5	・自由意見： 「スライドが見にくい(明度、フ ォントの大きさなど)。」	直ちに改善を試みる。	スライド使用自体は高評価 されているので、ズーム機能 などを取り込みながら、改善 してゆく。		
6	・自由意見： 「声が小さい。」		以前マイク使用を試みたが、 無線の状態が悪く、中止して いる。		
7	・自由意見： 「重要な事項は紙媒体で配 布してほしい。」	直ちに改善を試みる。	試験などに関する情報はプリ ントも用意し、伝達する。		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【外国語演習】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名：英語演習					
1	・自由意見： 「授業の内容がかなり難しく、アイデアがなかなか浮かばなかった。」	より簡単な単語を使用するようにする。	テキストを少し簡単なものからはじめ、徐々に難しいものとする。	テキストについて工夫すること。	
2	・質問項目： 「教員は学生の質問・発言などに適切に対応した。」	英語でのやり取りを授業の冒頭に必ず入れるようにしていた。	同左	特になし	リスニング
3	・自由意見： 「黒板の字が小さい。」	改善予定。	同左	特になし	リスニング
4	・自由意見： 「イギリスの文化・事情を知ることか出来た。」	イギリスのニュース教材を使用。	同左	特になし	リスニング
5	・質問項目： 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。」	紙媒体のシラバスに授業内容が書かれていなかったとの苦情を履修生から受けた。二学期からの着任であったためだと考えられる。	今年度は、できるだけ授業内容を分かりやすく、シラバスに記載するようにしたこと。		
6	・質問項目： 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。」	毎回の授業で担当学生に発表をしてもらったが、それ以外の学生に議論への参加を効果的に促すことが出来なかった点。	今年度は、発表者だけでなく、コメンテーターも設け、学生同士で議論できるように試みてきたこと。		
7	・自由意見： 「先生の話の中の例がいつも面白い内容のことが多くとても良かった。」	比較的難解なテキストを取り上げたが、それを理解しやすいよう、学生にとって身近だと考えられる事例を使って説明した点。	今年度も引き続き学生が興味を持ちやすいだろう例を引き合いに出して、英文の解説を行っていること。	学生にとって身近だと考えられる事例を使って、テキストの内容をわかりやすく解説するよう工夫すること。	
8	・自由意見： 「先生の解説が分かりやすかった。」	取り上げた英文テキストで論じられている内容の背景やその後の展開を説明した点。	今年度も身近な事例を使って、英文テキストの内容を解説していること。	取り上げた英文テキストの背景的な知識についても、わかりやすく説明するよう工夫すること。	
9	・自由意見： 「英語のレポートを書く体験ができて良かった。」	アカデミックな英文テキストを読解し、その構成や表現を学んだ後、実際に自分で英文レポート作成を实践するという授業構成にした点。	今年度の演習でも、引き続き英文レポートを課題にしておき、さらにレポートの書き方についての説明をよりしっかりと行うようにしている点。	授業で学んだことを実践できるように工夫すること。	
10	・自由意見： 「テキストが難しすぎだった。」	英文論文をテキストとして取り上げた点。	今年度からは、学生が発表を担当するテキストの分量を減らし、かつその論文が書かれた背景を説明し、できるだけ学生が理解しやすいよう試みていること。		

11	・自由意見: 「レポート課題の具体的な内容をもう少し早く教えて欲しい。」	レポート課題を履修者に伝えるのが、提出の約半月前になってしまった点。	今年度からは、レポート課題を提出の1か月前に履修者に伝えていること。		
12	・自由意見: 「英語を読むことに抵抗を感じることなく、“宗教と観光”という分野を知ることができた。担当教員のお話を通して自分の知識を広げることができた。」	論文の背景について詳しく解説した。	今後も継続して行いたい。		
13	・自由意見: 「今までに読んだ事のなかった種類の論文を読めたので、楽しかったです。」	高校までには触れることのないテーマの論文をテキストに選択した。	今後も継続して行いたい。		
14	・自由意見: 「英語の学術論文を苦心して読み通すことで、大学の一人となったという意識を持つことができた点。関連した様々な事例を教えていただいた点。」	論文精読に加え、それに基づいた議論をすることを促した。	今後も継続して行いたい。		
15	・自由意見: 「ずっと同じ題材で、新鮮味とおもしろみに少々欠けるので、途中で違う題材を入れていただけると嬉しいです。」	難易度のある論文を選択したため、読み通すのに時間が必要であった。	今後は、複数論文を取り扱うなど、工夫してゆきたい。		
16	・質問項目: 「教員の説明はわかりやすかった。」 「教員の熱意が伝わってきた。」 「教員の話し方は聞き取りやすかった。」 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。」	難しめのテキストであるため、学生が躓きそうな箇所にあらかじめ印を付け、授業内での補足説明を心掛けた。	これまでのレポート等から、学生が理解しにくい箇所のリストを作成し、予習の際のヒントとして示す説明、授業内の補足として示す説明を区分することで、より効果的な理解を促す。	ペーパーバックを1冊読み切るという目標があるので、「精読」は難しいが、要所所所で補足説明を入れたり、書き手の主張は何かについての問いかけを続けることによって、長くて難しい文章にもそれなりに取り組ませることができると。	
17	・質問項目: 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」	授業内で使うのはテキストと、発表者のレジュメのみであるため、特にレジュメに間違いの多い場合は、聞き手の学生が理解しにくい場合があると思われる。	発表者の間違いについては、都度補足説明を行うようにしているが、必要に応じて板書をする(または発表者に板書させる)などの対応も考える。		
18	・質問項目: 「授業で要求される作業量(レポート、課題、予習・復習など)は適切であった。」 「授業内容の難易度は適切であった。」	テキストの難易度・毎回の課題の量ともに要求の高い授業であるため、この点については学生の評価が分かれる。(→下記自由意見)			
19	・自由意見: 「テキストは難しかったが面白かった。一人では読めそうもないが、教員のサポート(授業内での解説・レポートの添削)を受けて理解することができた。」 「非常に大変な授業だったが、やりがいがあった・力がついた。」	シラバスには、テキストが難解であること・課題の量が多いことなどを明記してあり、初回ガイダンスでも注意喚起を行ったため、ある程度の覚悟をもって授業に臨む学生が多い。要求が高い分、レポートを毎回丁寧に添削するなどして、学生の意欲を維持するように心がけた。	レイアウトも工夫しながら、難易度をシラバスに明確に示す。一方で、やる気のある学生には一定程度の評価を得ている授業なので、授業内でのサポートについてもシラバスで分かりやすく記述する。初回ガイダンスを欠席した学生は、授業プラン自体を理解していないことが多いので、2回	毎回教員の側が添削やコメントを丁寧に行うことが、学生が学習を続けていく意欲にもなっているようなので、レポートを課す場合は、こちらもそれなりの覚悟と時間が必要。	

20	・自由意見: 「テキストが難しすぎる。」	特に(シラバスをよく読まず)初回ガイダンスを欠席した学生にとっては予想以上に難しい授業だったようである。	目の授業の際も丁寧な説明を心掛ける。		
21	・自由意見: 「学生同士の意見交換の時間が欲しかった。」	新しいテキストだったため、教員の側も補足説明に終始してしまい、意見交換の時間が取れなかった。	過去の授業でも意見交換が学生にとってお互い良い刺激になることは明らかなので、学生の発表時間・教員の解説時間をしっかり区切り、最低5～10分間は学生同士の意見交換の時間を確保する。		
22	・自由意見: 「初級クラスなので、基礎から丁寧に教えた点がよかった。」	説明が丁寧でわかりやすい点。ただ、もう少しペースを上げてよいのではないかとの意見があった。	基礎からの丁寧な説明と適度なペースのバランスをとるために、教材の内容、提示方法について工夫することを考えている。		
23	・自由意見: 「コメントペーパーに返答が行われていた点。」	学生が主体的に発言できる授業になるように、出席以外にコメントペーパーを配布して、質問や意見に答えた点。	双方向の授業であることを、授業のシラバスやガイダンスで学生に十分に伝えていきたい。		
24	・自由意見: 「多少宿題を出してもいいと思う。」	学生が最終レポート以外に評価の基準を出すことを促した点。	今後、小レポートなどにより、中間段階の評価を課すことを検討したい。		
25	・自由意見: 「エネルギーな授業、先生が熱心でこちらもやる気が出た。」	机の間を歩きながら、アイコンタクトや質問を投げかけ、相互交流を大切にした。	学生の名前を覚えられたらより効果的なので、名札を作ったり、座席表を作ることを検討する。	教壇から動かず、下を向いて講義ノートを読み上げるより、会話するつもりが良い。	
26	・自由意見: 「海外の話や沢山聞くことができた。英語で世界情勢を知ることは楽しくて、身に付きやすかった。直接体験されたことを話している。」	中級の外国語演習でありながら、専門知識や自分の海外経験を混ぜて話した。	外国語演習ではあるが、教員の専門・海外経験に基づき、海外留学にも役立つことを目指すと、シラバスにも書いた。	語学専門でない教員が外国語演習を担当する場合、教員の専門を強みとして強調した方が、学生には魅力に感じるようだ。	
27	・自由意見: 「フィードバックを盛んに行い、授業をその都度修正した。先生が生徒のことを一番に考えてくれた。アンケートを行って内容を決めた。」	毎回小テストを行い、授業の感想のフィードバックも聞き、次回以降の授業内容に反映させた。	授業の体系性に疑問を抱かれないよう、フィードバックで内容を随時修正する教育手法である旨を、シラバスにも明記するべきかもしれない。	定期的なアンケートとそれへの回答は、手間はかかるが、学生の満足度を上げる。	

科目名:中国語演習

1	・自由意見: 「全員が授業で必ず発音する形がよかった。」 「積極的な会話練習ができた点。」 「中国語を少しですが話せるようになったこと。」 「中国語を話す抵抗感が減った。」 「発音が少しくまくなった。」 「TAさんがいたので正しい発音が聞けてよかった。」 「普段の授業であまり身につけられない会話を多く練習できてよかった。」	発音の機会を作る。	必修の授業よりも受講者が少ないために、一人一人の発音の機会をつくる。TAをさらに効果的に活用し、アクティブラーニングの充実を進める。	中国語演習には、読解や専門知識に重点を置く授業もあるため、一律にリスニング、発音を重視するわけにはいかないが、発音向上の需要がある点を、中国語教育系の教員で共有する。	
---	---	-----------	--	---	--

2	・自由意見： 「一人一人の発音を聞いて 正してもらえる点。」 「一人一人の発音を聞いて アドバイスする点。」	発音をさせるだけでなく、一 人一人にアドバイスしたことが 評価された。	発音重視の授業において は、一人一人にあった指導を 行う。	左記の認識を中国語教育 系で共有する。	
3	・自由意見： 「中国語 I, II で習ったこと を復習できた。」 「必修の授業ではわからない ことを理解できた。」	中国語 I, II との関連で教 え、中国語の知識が体系的 に身についたとする意見。	中国語 I, II 担当教員の 演習授業では、I, II との 関連で教えるよう心掛ける。	左記の認識を中国語教育 系で共有する。	
4	・自由意見： 「中国の文化に触れながら、 文法とか基礎的なことも学べ てよかった。」 「文化についても学びかけ になった。」 「“実際の中国”の様子を聞 けたこと。」	中国社会、文化についての 話が評価された。	語学の背後にある知識が求 められていることに留意する。	左記の認識を中国語教育 系で共有する。	

科目名：外国語特別演習

1	・自由意見に言語以外の現 実(社会・文化)についても 触れたり、学べたりすること や、インタラクションを重視す る授業方法に対して肯定的 な意見が多かった。	・言語だけでなく文化につい ても知識を得られた(雑談・ビ デオ・PPT などを通して)。特 に音楽や映像の放映が効果 的。 ・学生同士のペアでの会話 練習や交流、グループ作業と いったアクティブな授業形態。 ・ネイティブから生の発音、現 地の言語文化に関する発言 を聞いた点。 ・読み書きよりも会話を学習 できた。 ・説明が丁寧だった。		・教員の熱意が伝わるか。 ・説明がわかりやすいか。	
2	・自由意見に適宜、内容定 着を図る工夫があってもよか ったという意見が散見された。	・機器操作はスムーズに行わ れるべき。 ・学習の定着度を図るテスト を適宜実施した方がよい。 ・学生の私語やスマホ使用な どをやめさせるべき。	・TA やネイティブのゲストの活 用。 ・学期末試験以外の定着度 を見るためのテストの実施。		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【文系基礎科目】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名：人文・社会科学の基礎					
1	<p>・質問項目： 「質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業の積極的に参加した。」 ・自由意見： 「他のメンバーと議論できたこと。先生の説明が分かりやすく、面白かったこと。」 「ディスカッションするのと、毎回何人かの課題レポートを見れるのが面白かったです。」 「ディスカッションを通して意見を共有した点。」 「ディスカッションする相手がある程度決まってしまうた。」 「グループ内のディスカッションが完全にグループに丸投げされているので、もう少し進め方を教えてくれると親切だと思う。」</p>	<p>学生からはディスカッションは他の学生の意見を聞くことができ面白かったと好評だったので、これは今後も行っていきたい。</p>	<p>ディスカッションを行うと議論が盛り上がるグループと、議論が低調であるグループが生じてしまう。これについては各グループにファシリテーターを置く、意見が一方に偏らないよう、意見が少数になると思われる立場から議論するメンバーを各グループにおく、ということをしてみたい。またディスカッションが低調なグループには適宜教員やTAが議論に加わるという形でディスカッションを活性化させる必要があり、今後はTAまたはTFを活用して議論の活性化を試みたい。また「全体での議論の時間」をいれたいと思う。</p>		
2	<p>・質問項目： 「教員の話し方は聞き取りやすかった。」 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」 ・自由意見： 「プリントが見やすかった。」 「スライドのプリントがあるのは復習のときにも使えるのでありがたい。」 「先生の説明が分かりやすく、スライドがおもしろかった。」 「先生の滑舌。」 「やや早口な印象があるので、少しゆっくり喋ってもらえるとよいと思う。」 「スライドが見にくい。」 「スライドの文字が小さくて見づらいときがあった点。」</p>	<p>質問項目の「教員の話し方は聞き取りやすかった。」が他より少し評価が低かった。私の滑舌が悪いせいである。大教室であったこともあり、スライドの文字が小さくて読みづらい、という声があった。</p>	<p>これについては講義のポイントを減らしてゆっくり話すことを心がけた。また教室が縦に長い大教室だったので学生が聞き取りにくい、ということもあるようなので、TAに音響の確認もしてもらいたいと考えている。またスライドのレイアウト等を工夫して、できるだけスライドだけで授業内容が理解できるようにした。見えにくさについては、スライドの枚数が多くなってもよいので、字を大きくしたいと思う。</p>		
3	<p>・質問項目： 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。」 「授業は全体として満足できるものであった。」 ・自由意見： 「授業で行われた内容を独自に調べ、発展的に学習す</p>	<p>ディスカッションが「やりっ放し」にならないように、最後にショートエッセイを記入させた。</p>	<p>人数が少なければショートエッセイを添削してコメントをつけた上で学生に返却できるが、人数が多い場合は難しい。</p>	<p>TFが雇用できればTFに採点・添削をさせることができると思われる。</p>	

	<p>る契機となったこと。」</p> <p>「毎回自分の意見を主張するディスカッションとショートエッセイの時間があつたため、より主体的に課題を考えられた。」</p> <p>「ショートエッセイを書く時間が短いこと。」</p>				
4	<p>・質問項目： 「授業はシラバスにそって行われていた。」 「授業で要求される作業量（レポート、課題、予習・復習など）は適切であった。」 「教員は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。」 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。」 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」</p> <p>・自由意見： 「ディスカッションが多く、もっと先生の話も聞きたい。」</p>	<p>グループディスカッション中心の授業なので、教員の話は控えているが、コンパクトなレクチャーや問題提起はもう少し行うべきだろう。</p>	<p>短く教員からのレクチャーや問題提起をできるよう、もう少し工夫したい。</p>		
5	<p>・質問項目： 「質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業の積極的に参加した。」</p> <p>・自由意見： 「ディスカッションのときに席替えをしていろいろな人と議論できてよかった」</p>	<p>同じ人や友達とばかりグループにならないように、なるべく席替えをしてからグループディスカッションをするようにしている。</p>	<p>席替えをするのは時間もとるが、授業アンケートでは席替えするのがよかったという意見が多かったので、続けている。ただ席替えがパターン化してしまいがちになり、一部の学生から不満もあるので、さらに席替えを工夫する必要あり。</p>		
6	<p>・質問項目： 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。」 「授業は全体として満足できるものであった。」</p> <p>・自由意見： 「ディスカッションが多かったところがよかった」</p>	<p>毎回グループディスカッションを多く取り入れている。ディスカッションの方法もなるべく多様な方法になるように工夫している。</p>	<p>評価が高いため、今後もグループディスカッションは積極的に取り入れていく予定。</p>		
7	<p>・質問項目： 「質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業の積極的に参加した。」</p> <p>・自由意見： 「生徒の発言を批評し、注目すべき論点を提示しながら、授業を展開していた点。」 「生徒の発言をうながし、出た意見を元に議論が進められていた点が良かった。」 「他の受講生の意見がたくさんきけた点。」 「教員が生徒に活発な意見を求めて発言を促していた点。」 「たくさん当ててくれました。」 「先生が自分の価値観を押しつけすぎない点。」</p>		<p>改善点の要望として「先生が自分の価値観を押しつけすぎない点」という意見があつたが、一方で良かったと思う点としては「生徒の発言を批評し、注目すべき論点を提示しながら、授業を展開していた点。」という意見も寄せられた。学生が発言した意見に対して、全体の進行から著しく外れるものやあまりにも偏向していると思われるものに対しては、教員がその意見を修正しながら次の議論への展開を試みた。しかし、そのような発言をした学生にとっては、自分の意見が一方的に変えられたと受け取ることもあると思われる。進行を務める</p>		

	「もっと生徒の発言をうながすように、グループディスカッション等を試みるとよいと思う。」		教師がそれをするのではなく、他の学生の意見としてそのような修正点の発言を待つ、あるいは促す方が良かったと思われるが、時間との兼ね合いで、どうしても教員がそれを発言することが多かったのかもしれない。授業(討論)の進め方自体について、予め教室全体でのコンセンサスをさらにもっとおくようにしたい。		
8	・質問項目: 「教員の話し方は聞き取りやすかった。」 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」 ・自由意見: 「映像などを使い興味をひいていた点。」 「一つ一つのテーマを詳しい資料と解説で深い教養を身につけることができました。」 「予習で配られる新聞記事がおもしろかった。」 「本の紹介をもっとやってほしかった。」		改善点として挙げられた「本の紹介をもっとやってほしかった。」という点に関しては、今回は各テーマについて各3~5冊の本を紹介した。ただし、本の内容の紹介でなく、取り扱うテーマをさらに深めたい人は読むように勧めたものである。授業終了後に教卓の上にしばらく置いておいたが、退出時に実際に手に取ってパラパラとめくる学生はごくわずかであった。		
9	・質問項目: 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。」 「授業は全体として満足できるものであった。」 ・自由意見: 「授業が時間通りに終わらなかった。授業の終わりに時間が無くなって授業内容が詰め込まれた。」 「次が昼休みだからといって平気で時間を延ばす点。」		改善点として挙げられた「授業が時間通りに終わらなかった。授業の終わりに時間が無くなって授業内容が詰め込まれた。」「次が昼休みだからといって平気で時間を延ばす点。」という指摘については、討論を組み込むために、確かに終わりの方で時間が不足することもあった。しかし決して「平気で時間を延ばす」ようなことはしておらず、受講生に断りを入れて同意を得たつもりでいたが、その場では声をあげられない学生もいることを再認識した。また、授業の終わりに、当日の授業内容についての「感想・質問」を記入してもらった参加カードを提出させているが、それへの記入時間が少なかった、あるいは授業時間が終了した後に残って書いている学生もいたので、提出まで授業時間内に終了するようにしたい。		
10	・自由意見: 「生徒との対面形式が良かった。」	双方向性の授業スタイルを取らず、一方的に話しかけた点を改善したい。	今後はグループワークの導入も考えたい。	受講者の人数が多く、何グループに分けるのが難しい。	
11	・自由意見: 「いろいろな人のレポートが読めてよかった。」	授業内でとりあげなかったレポートについても感想と評価を書いて返却する。	レポート提出前に、思索ポイントなどのヒントをあたえる。	自由な考察と、方向性を与える考察、その両方を使い、中間レポートを導く。	

12	・質問項目： 「教員の話し方は聞き取りやすかった。」	・ピンマイクを少し離れた位置につけ、あまりマイクに頼らないで講義を行うこと。 ・講義中に教室内を移動し、スピーカーからの声が割れていないかを確認。	今後も継続する予定。	同左	
13	・質問項目： 「教員の説明はわかりやすかった。」	・重要なことは2回繰り返して説明することを意識した。	今後も継続する予定。	同左	
14	・自由意見： 「経営学についてわかりやすい例をはさみながら楽しく学習することができた。」	・説明のために用いる事例が学部1年生の世代に伝わるかどうかを確認する。	今後も継続する予定。	同左	
15	・自由質問： 「友人がいないため、集団で発言できず参加度としては低くなってしまった。」	・講義で発言しやすい雰囲気をつくと、どうしても友人同士で参加している学生が議論の中心になりやすい。	・100人以上のクラスサイズで講義への参加度を測る際に、もう少し個人作業の要素を入れること。		
16	質問項目： 「教員の話し方は聞き取りやすかった。」	毎回、授業開始時にはできるだけゆっくりと話し、ノートをとりやすくしようと心がけたのだが、授業が進むにつれ早口になってしまった。	授業終了時に、その回のポイントとなる点をあらためて述べるなど、履修者に不安を抱かせないようにしたい。	特になし	
17	質問項目： 「教員は効果的に学生の参加(発言, 自主的学習, 作業など)を促した。」	履修者数が100人前後の大教室での講義であり、履修者全員に平等に発言を求めたり質問したりすること、課題に取り組ませることが難しかった。	資料をより多く提供したり、自己採点できるいくつかの小問を提示するなど、学生自身が考えながら受講できるように、いっそうの工夫を心がけたい。	特になし	
18	自由意見： 「試験において、知識を羅列するだけの問題ではなく、考えさせ、書かせる問題が出題された点。」	試験では、資料の参照を自由とした上で、資料の参照だけでは解答できない設問になるように工夫した。講義を参考に自ら考えとのねらいを把握して試験に取り組めた履修者がいたことを嬉しく思う。	講義のねらいに適したテキストが見つからないためにプリントで対応したが、学生が各テーマについて自分の理解を書き込めるように、詳しい内容を記載しなかった。プリントの作り方ははじめ、授業を参考にものごとについてより深く考えることを促せる形を、さらに追求したい。	論述式の試験は、授業担当者にとっては採点が難儀であり、また、採点基準の明確化などの困難も伴うが、出題の仕方や設問によっては、考えることの大切さを学生に気づかせるものとなりうる。また、学生の理解の仕方をみる上で有効で、授業での説明の仕方などについて反省材料を提供するものにもなる。	
19	自由意見： 「身近な例をもとに話をしてくださって、経済を捉えやすかった。」	授業の主要内容は資本主義経済の大まかな歴史だったが、歴史はたんなる過去の出来事の集積ではなく、現在について学ぶ際に豊富な材料を提供してくれるものでもあることを意識して講義した。	学期はじめの授業の進め方を遅くしたために、学期末に駆け足で説明しなければならなくなっていた点を反省している。仮令予定のところまで行かなくても、その都度のテーマの丁寧な説明を続けるべきであった。	特になし	
20	自由意見： 「黒板の使い方をもう少しわかりやすいものにしてほしい。」	板書する文字の配置、大きさなどについて、今後とも改善を心がけたい。	板書のほかに、プリントを配布した。重要な点は、板書するとともにプリントにも記載して注意を促したつもりである。プリントの形式などを、さらに改善したい。	以前にプレゼンテーションソフトを使用して講義したとき、学生が画面に夢中になり、ノートがとれてないことに気づいたので、それ以降、板書に徹している。板書のスピードと話すスピードとが上手く合うと、ノートをとりやすいとの意見をもつ学生も、少なくない。	

21	・自由意見: 「教員の説明は熱意が伝わってきた。」	パワーポイントの利用や、教員の実務経験の話を盛り込むことにより、熱意が伝わったものと思われる。	引き続き、実務経験の話を盛り込むことなどにより、受講者に熱意を伝えたい。 また、大人数の授業であっても、アクティブラーニングとまではいかないものの、時には双方向的なコミュニケーションをとることができるよう、工夫していきたい。		
22	・自由意見: 「スライドなどが毎回丁寧に作られていて見やすく、真面目さがよく伝わってきた。」	受講生が多数である中、レジュメ作成の準備及び(TAも問わず)資料準備なども大変であったが、毎回レジュメを配付し、パワーポイントのスライドショーを利用した説明ができたことは良かった。	引き続き、パワーポイントのスライドショーを利用した説明及びレジュメの配付に努めていきたい。	高い評価と低い評価と分かれており、全体として高い評価を受けていないので、他の教員の参考にはならないと思うが、毎回レジュメや時事問題記事などを配付することは、有効であると思われる。	
23	・自由意見: 「時事問題を取り上げてくれて、興味がわいた。」	身近な素材を使用することに心がけて、新聞の切り抜きやテレビ報道などで関心のある経済事項を取り込んで、授業を行った点が良かったと思われる。	引き続き、学生に馴染みのある素材を使用することに心がけ、新聞報道などの関心のある事項を取り込んでいく。		
24	・自由意見: 「抜き打ちテストはやめてほしい。」	受講登録者が250人を超える授業であり、大教室での出席者を適切に把握する方法の一つとして、抜き打ちテストを実施したが、事前に予告した方が教育効果が上がるのが良くわかり反省している。	事前にテストを行うことを予告すれば、テスト準備のための学習により、多くの教育効果が期待できることから、今後、抜き打ちテストは一切行わない。 また、大人数に対する授業や授業中のテスト実施のために、TAを有効に活用したい。		
25	・自由意見: 「レジュメの分量が少し多いと思う。」 「専門的な用語が多く、内容も難しい。」	初学者向けの入門的な内容であり、もっと専門的な事項も聞きたかったという一部意見もあったものの、多くの受講生からは、専門用語や内容が難しいという意見があり、レジュメの分量や内容をもう少し厳選した上で、専門用語の解説・説明に時間をかけるべきであった。	(学生に伝えたい内容は山ほどあるものの、)レジュメの分量を少し減らし、内容を厳選した上で、専門用語の解説・説明に時間をかけることとした。		
26	・質問項目: 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業)を促した。」	グループでの話し合いにより、理解の深まりや知的好奇心が高まった点。	グループで特定のテーマについて話し合う時間を設けること。	学生同士がディスカッションできるよう、グループを作り時間を設けるよう工夫すること。	
27	・自由意見: 「3人の教員によりさまざまなテーマが示され、問題関心が広がった。」	違う分野について1つの授業で学べ、最後の総括でそれらのつながりを見出せた点。	多様なテーマを取り扱い、最後にそれらのつながりを示すこと。	複数教員による授業を積極的に行うとともに、異なる授業間のつながりを示すよう工夫すること。	
28	・質問項目: 「この授業の1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均()であった。」	平均予習・復習時間が少なかった点。	次回授業で扱うテーマを提示し、調べたり考えたりしてから授業に参加するよう促すこと。	次回授業で扱うテーマについて、あらかじめ調べたり考えたりしやすいように工夫すること。	
29	・自由意見: 「資料の朗読が単調で眠くなる、その場で資料を読むのに時間が足りない。」	資料を効果的に学習できていないことがある点。	次回授業分の資料をあらかじめ配っておき、予習するよう促すこと。	配布資料について、授業開始前に学生が入手できるように工夫すること。	

30	・自由意見全般	・よかった点・評価された点： レジュメが綺麗にまとめられていた点、具体例を用いて説明していた点、1つの授業で3つの法分野が学べる点など。			
31	・自由意見全般	・改善した方が良いと思われる点：3つの法分野の時間のバランスをとること(公法・国際法と刑事法で半分ずつだと、前者の時間が足りない)、声をもう少し大きくすること、話すスピードをもう少しゆっくり目にする事。	3つの法分野のバランスについては、引き続き次年度担当教員間で協議を行う予定。声を大きくしたり、話すスピードについては、学生の反応を見ながらその都度対応する予定。		
32	・自由意見： 「繰り返し説明を聞いた点。」 「具体例を用いた説明があった点。」 「説明が分かりやすい。」	具体例を用いながら、繰り返し、基本的な理解を深めるようにつとめた点。	比喩的にいえば足腰の鍛錬が重要であるという考えから、基本を重視している。		
33	・自由意見： 「授業難易度が高い。」 「簡単すぎる。」	基本を重視しつつ、刺激を与えるためにアドバンスドの事柄も若干触れたが、熱心な学生からすればアドバンスドの内容をもっと聞きたいという評価となり、他方で、それほど熱心でない学生からは、レベルが高すぎるという評価になったものと思われる。	多様かつ多数の履修者全員にちょうど良い塩梅の授業はできないことから、中の上の位置にいる学生を想定して授業を行っている。		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【理系基礎科目】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目：から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名：線形代数学Ⅰ					
1	・自由意見： 「授業で解説していない問題をテストに出さないで欲しい。」		宿題のレポートに対して解答例を全員に配布するようにし、テストの問題は、解説した問題を理解していれば8～9割得点できるように心がけることにした。		
2	・自由意見： 「プロジェクターの利用に際しては、配布資料が必要だと思われた。」	プロジェクターで投影した内容をすべてノートに書き写すことが困難である。	プロジェクターを利用する場合は、内容を印刷して配布する。		
3	・自由意見： 「評価基準が明確でした。」	評価基準の妥当性も評価されていると思われる。		最後の講義で成績の評価基準と分布を公開し、履修者が評価基準の妥当性を判断できるようにしている。	
4	・自由意見： 「授業中に計算例の解説があると復習のときに役立つ。」	計算式だけがノートに残っていても、その計算の意味や内容がわかりにくい場合がある。	計算式だけではなく、どのような計算を行っているかの説明を板書に書き加えるように心がけている。		
5	・自由意見： 「説明が難しすぎて理解出来ない。自己満足の授業はやめて欲しい。」		講義のどの辺りが難しいのここらではわからないが、具体例などを多くして説明を丁寧にして対応したい。		
科目名：線形代数学Ⅱ					
1	・自由意見： 「黒板の方ばかり向かっている。」		板書が一段落した後、学生の方を向いて語りかける時間を意識して入れるようにした。		
2	・自由意見： 「黒板の字が見にくい。」		板書の字が薄いのは改善しづらいので、字を大きく書くよう心がけることにした。		
3	・自由意見： 「板書で計算ミスが時々ある。あと「i」と「1」など紛らわしい文字がある。学生からは指摘しづらい。」		此方で注意する他、ミスを指摘しやすい雰囲気を作る。		
科目名：微分積分学Ⅰ					
1	・自由意見： 全体的に学生からの意見はほとんどが授業に好意的なものだった。	途中からプロジェクターを利用した講義に切り替えたが、評判は良かった。演習問題を最後にまとめて実施していたが、授業の合間に行った方が理解が深まるのではないかと考えている。	今後も引き続きプロジェクターを使用した授業をいくつか取り入れていきたい。		

2	・自由意見		特に自由意見欄には書かれていなかったが、もう少し知的に興味を持てる題材を取り入れるように工夫したい。		
3	・自由意見： 「図をたくさんかいてくれて分かりやすい。」	式だけの定義や計算など、抽象的な説明だけにならないよう常に意識した。図や(教科書にはない)直観的な説明を多く取り入れ、教員が講義で直接教えることのメリット、授業への魅力を感じてもらえるよう工夫した。			
4	・自由意見： 「宿題による復習とその添削、解説が理解に役立った。」	理解の確認や復習を、宿題を通して学生に自主学習として行ってもらった。宿題の解答プリントは内容補充としても利用した。いくつかの別解を紹介することで、一つの問題に対してもさまざまな見方・解き方があることを示した。			
5	・自由意見： 「質問会みたいなのを開いてくれてよかった。」			試験前に勉強し直して、学生が改めて疑問に思うこともあると考えたので、期末試験前に質問対応の時間を設けた。また、教員に気軽に質問する機会が大学では少なくなりがちなので、その対策の意図もあった。宿題の添削で理解できなかった点を質問してきた学生もいたので、学生とこのように直接話す機会を設けたことは一定の効果があったと思われる。	
6	・自由意見： 「出席も成績に考慮してほしい。」		本講義では行わなかったが、今後は例えば小テストを行い、それを出席にあたるものとして成績に加味するといった対応が考えられる。		

科目名:微分積分学Ⅱ

1	・質問項目： 「質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。」	質問などを成績評価に加える旨周知して、授業への積極的な参加を促している点。			
2	・自由意見： 「プリントを各自印刷するのではなく、配布してほしい。」	配布に費やす時間を節約するため、授業資料については、必要に応じ Moodle から各自印刷することにした点。	紙媒体で授業資料を配布するよう計画している。		
3	・自由意見： 「3回の小テストで授業内容理解の確認ができた。」 「毎回授業の冒頭で前回授業の確認・復習が理解に役立った。」 「声が小さくて聞きにくいときがあった。」	講義中にも復習をきちんとやることがよいという意見が多いので、この点は継続していきたい。一方、声が小さくて聞きとりにくいという意見があった。	講義冒頭にマイクの調整等をきちんと行って、聞き取りやすい講義となるよう必ずチェックする。	小テストや講義冒頭での復習など、ともかくも復習を講義中にこまめに入れることが理解に大変役立つようである。	

4	・自由意見: 「公式などで、気をつけるべき点について分かりやすくまとめ、強調する等した点は役立った。」	要点を強調し効果的な板書、説明など丁寧で分かりやすいとの意見がある一方で、板書の書き直しもあり混乱を与えてしまった。	引き続き、よりの確な説明を心がけたい。		
---	--	--	---------------------	--	--

科目名: 入門微分積分学

1	・自由意見: 「Moodle で予習を提出することの周知が不十分だったと思う。」		最初の授業の際に、Moodle の使い方だけでなく、Moodle を用いて予習課題を提出することについて、周知徹底する予定。		
2	・自由意見: 「宿題をホームページに載せていること、数学が苦手な学生にも配慮していたことが良かった。」	ホームページを講義に活用していることと丁寧な説明が評価されている。			

科目名: 数学概論(級数入門)

1	・自由意見: 興味は持ってもらえたようであるが、証明が丁寧というのと、説明が不十分というのと、両面の意見があった。	扱うテーマに興味と意欲を持ってもらえた。			
2	・自由意見全般	べき級数以外は詳しく扱えなかったことは、改善した方がよいと思われる。	フーリエ級数にもっと時間を割くこと。複素数の活用を織り込むこと。		

科目名: 物理学 I

1	・自由意見: 「クリッカーを使うので飽きずに集中できた。」 「PowerPoint の動画の使い方が適切、効果的。」	「動画を用いて授業を行ったので、運動の様子が把握しやすかった」点が評価された。しかし、「板書を増やしてほしい」という意見もあった。		クリッカーを使うと、高校で物理を履修していない学生でも集中力を切らさずに授業を聞くことができるようである。	
2	・自由意見: 「スライドがわかりやすかった。」 「スライドを、ネットに挙げていたことも、復習に役に立った。」	講義スライドをネット上にアップしたことが好評。しかし、スライドの文字が小さい、スライドを進めるのが早い、などの改善点が指摘された。また、黒板の使用を求める意見もあった。	講義室のテレビも利用して講義を進める等、学生の利便を図った。	講義で用いた資料を Web ページに載せて閲覧できるようにした点が学生に好評であった。	
3	・自由意見: 「板書が色分けされていて見やすい。」	説明の仕方がわかりやすかった。毎回レポートを出してくれていい復習になったという意見があった。しかし、試験には出さなくても、高度な内容をもう少し講義に加えて欲しいという意見もあった。		スライドではなく、板書のほうがいいという意見が多くある。板書で行う場合、色も使ってきれいにまとめると、学生にわかりやすいと考えられる。	
4	・自由意見: 「映像の使い方が効果的であった。」 「スライドのアニメーションにより理解が深まった。」	アニメーション、動画、クイズ等を使い、授業を進めたことが好評価。しかし、要点を押しさえやすくしてほしい、全てパワーポイントで単調だった、という意見が複数あった。	動画等を用いて直観的に理解できるように工夫して授業を進めた。	アニメーション、動画、クイズ等は多くの学生に好評なので、参考にするといい。	
5	・自由意見: 「毎回の小テストで理解度ははかれた。」 「毎回、授業理解のプリントがあったのがよかった。」	プリントを用いて講義内容を見直せてよかった一方説明をもう少し丁寧にしてほしい、黒板の字が小さくて時々見えない、という批判もあった。		小テストを毎回の授業の終わりに行うなど、その日の講義で習ったことを確認できるようにするといい。	

科目名:物理学Ⅱ					
1	・自由意見: 「スライドをアップしてくれて復習に役だった。」 「毎回復習の時間があって良かった。」 「宿題をやることにより、授業の復習ができた。」	講義スライドをネット上にアップ、毎回のレポートが好評。しかし、式の厳密な導出を黒板でして欲しい、という意見もあった		授業で使った資料が pdf ファイルとしてダウンロードできることが学生に好評であった。また、授業内で演習の時間を設けていることも好評であった。	
2	・自由意見: 「教科書と同じ話でも違う方法で解いたり、詳しく教えたりして、理解が深まった。」 「スライドが見やすい授業だった。」	スライドが見やすいのがよかったという意見がある反面、スライドをめくるのが早くてノートをとれない、スライドを何らかの形で配布すべき、という意見が多くあった。	以前、板書をしていたが、板書をやめ、パワーポイントを使った講義に変更して好評を得た。	授業をパワーポイントを使って行うようにすると、その資料をネットにアップしてほしいと学生の要望が出てくる。	
3	自由意見: 「スライドを使って、各事象に対し、図やアニメーションを用い、視覚的に説明。」 「レポートの量が多すぎる。」 「スライドの進行が早く、ノートをとる暇がない。」	スライドが見やすく、教科書とリンクしている。「前回の復習を行って、前回の内容を思い出せるようにしていた」のが良かった点。レポートが多い、毎回無意味なレポートを出される。宿題が教科書の丸写しで意味がない、などの批判もあった。		スライドを使った授業は好評だが、授業の進行ペースは速くなりがちで、気を付けなければならない。復習のために課題を出すのはもちろんいいことだが、多すぎると負担にもなる。	
4	・自由意見: 「物理の法則や原理が実際の現象や技術にどのようにかかっているのか説明があり、興味深かった。」 「3Dの映像で、抽象的な概念を視覚的に取り入れることができた。」	AV 機器の使い方が適切であった、との評価がある反面、例題が少なく、むずかすぎてわかりにくかった。プリントを配ってほしかったとの批評、要望があった。		3Dなど視覚的に効果のあるスライドを使うのもいいと思われる。	
5	・自由意見: 「毎週のレポート課題が有効だった。わかりやすかった。とても楽しかった。」	授業内容に沿った演習問題を毎回提供して理解度を深めさせようとした点。	よりよい問題と解答例を提供できるようにしたい。	講義を聴かせるだけでなく、講義に即した問題を実際に解かせて、理解度を深めさせる。	
6	・自由意見: 「WEB で講義資料とレポートの解答例を公開していたのが良かった。電磁気学についての講義資料も載せてほしい。」	講義ノートと演習問題解答を pdf 資料として WEB 公開し、予習復習ができるようにした点。	後半の電磁気学についても、講義ノートを作成して公開することを計画している。	WEB を積極的に利用して講義情報(講義ノート、演習問題解答、試験情報など)を発信すると、大変有効である。	
7	・自由意見: 「授業内容が難しすぎた。数学的な内容が多すぎた。板書ミスが多い。」	板書ミスは改善し、また講義ノートを公開することで、聴講者が後で確認できるようにしたい。	履修者が、物理既習者から未修者まで幅広く分布しているので、ターゲットを絞るのが大変である。	講義ノートを WEB 公開することは、学生が授業を予習・復習する際に大変有効。	
8	・自由意見: 「歴史等も教えてもらい、物理に興味を持った。」	物理学史を人間ドラマも含めて提供した点。	より多くの歴史を講義内に盛り込んで、面白い授業となるようにしたい。	気を休めて面白く聴ける話題を挿入すると、聴講者の興味が続く。	
9	・自由意見: 「高校で未履修の学生にも、既習者にも可能な限りの配慮がされていた。」	人的には、多数派の高校での未履修者にウエイトをかけた点と分析。	トピックス的に進んだ話も少し盛り込んで、もう少しバランスを取れるようにする計画である。		
10	・自由意見: 「板書がきれいかわかりやすかった。」	字がきれいでないため、なるべく丁寧に書くように努めた。	今後も実践していきたい。		

11	・自由意見： 「板書の量をもっと少なくして欲しい。」	書くことで頭に残ることがあると考え、板書量は多かった。	説明を増やして、板書量を減らす予定。ただ、何を写すべきかについては少し考えてほしい。実際、きれいにノートにまとめることができたという回答もあった。		
12	・自由意見： 「板書の字が若干小さくて見づらかった。」	横に長い式等で小さくなってしまった可能性がある。	なるべく注意する。ただ、かなり大きめに書いたつもりで、これ以上大きくすると黒板を使いにくいので、見えづらいのであれば、なるべく前に座って欲しい。授業時にしてもらえれば対応可能であった。		
13	・自由意見： 「声が小さい。」	初回に声が聞こえるか確認して特に要望がなかったので、マイクを使わなかった。	部屋の大きさ次第で、今後はマイクの利用を考える。授業時にしてもらえれば対応可能であった。		
14	・自由意見： 「問題演習を授業中かレポートで出して欲しかった。」	一度演習問題をその場で課したが、あまり手を動かしているように見えなかったため、以降実施しなかった。	内容と進度に応じて、含めることを検討中である。		
15	・自由意見： 「テストが難しい。」	かなり基本的な問題を出したつもりであったが、ここまでの指摘点を考慮すると、内容の理解が困難であったことが推測される。	より基本的な問題を出すことを検討中。ただ、現状では復習時間が少ないことも一因と思われる。		
16	質問項目： 「教員の説明はわかりやすかった。」	決してわかりやすくなかったと反省。進度が速かったことが主な原因と分析。	他の講義も含めて、話す内容を大幅に減らして、丁寧に説明するように心がける。		
17	質問項目： 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。」	問題を解かせたことがあったが、あまり手を動かそうとしなかったため、その後は実施しなかった。	少数クラスについては実践を検討中である。		
18	質問項目： 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった。」	板書量が多いという評価。一部は、ノート持ち込み可の試験を実施するために、起きてしまった弊害と分析している。	板書量を減らす予定。ただし、写すべきかどうかはある程度自身で考えて欲しい。また、現実社会において、何かをメモするときに、必ずしも相手が待ってくれるとは限らない。ある程度早く要点を押さえてメモする習慣もつけて欲しい。		

科目名：化学Ⅰ・Ⅱ

1	・自由意見： 「前期に受けた授業の中で一番教員の熱意を感じた。」 「特徴的な授業を心がけているのがとても伝わった。」	学生に理解させるための工夫や熱意は必ず伝わる。	内容、項目の整理はもちろんであるが、例示や場合によっては雑談に近い社会での応用例などで学問の価値や興味をわからせる。	内容の質を伴った高評価については、良い例として授業資料などを当該教員の合意が得られれば担当教員間で共有する。	
2	・自由意見： 「スライドがわかりやすい、声が聞き取りやすい。」	視覚・聴覚に明瞭に訴える内容の精選。			
3	・自由意見： 「高校の化学と絡めて進めているのがよかった。」	知識背景を理解した上での授業の実施。		最新の高校学習要領や履修内容についての情報を得る。	

4	・自由意見: 「物理の内容をあまり高校で履修していなかったのが不安だったが、教員の説明がわかりやすくて理解できた。」	背景や関連単元を知らない学生への配慮。	授業前に、物理、生物、地学の履修経験を全学生に聴き、化学に最低限必要な項目について簡単な導入授業を行う。	高校生については最新の履修分布傾向と対策についての情報を教員間で共有する。	
5	・自由意見: 「積極的に生徒の参加を促していた。」	学生との対話、考えるきっかけを与える。			
6	・自由意見: 「テストの解答を早めに公開すべき。」	履修目標の達成度について学生が自分で理解できる配慮が必要。	小テストであれば早めに採点して学生にフィードバックする。演習を適切に導入する。		
7	・自由意見: 「教科書を用いた復習をもっと促せば、授業の内容が定着するのでは。」	良質な教材を提供あるいは紹介し、自主学習が進められるように配慮する。		良質な教材についての情報を共有。	
8	・自由意見: 「板書が多くしてくれたので、詳細な部分まで理解できた。」 「内容が難し過ぎるので分量を減らして欲しい。」	総合入試以来、このように両極端の評価を同時に受ける場合が多くなったが、このシステムが続く限り工夫は必要。	優秀な学生は厚みのある授業を好む。その配慮は必要なので重要度の順位付けを明確にする。	内容を多くしつつも、ついていくのが大変な学生の興味をなくぐピックス紹介や教育法の技術共有。	
9	・自由意見: 「Webで授業プリントと過去問が見られたのがよかった。」	教員の行う授業の考え方、内容がわかる	複数年授業を行っている場合は、その内容やテスト(履修目標)をwebで見られるようにする。		
10	・自由意見: 「スライドでYouTubeなどで原理が説明されるので良くわかった。」	公開されている良質な教材(動画)の積極利用。	化学実験をする高校が減っているのでデモ的な実験は動画で積極的に見せて、履修内容を実感させる。	公開されている良質な教材(動画)の情報共有。	
11	・自由意見: 「質問に答えてくれるのが良かった。」	学生が躓く部分についてその場で教える。	難解もしくは理解しにくい部分についてクラス全体で共有する。学生と一緒に考える。		
12	・自由意見: 「プリントの内容がしっかりしている復習しやすかった。」	良質な復習教材の配付。		当該教員の合意が得られれば担当教員間で共有する。	
13	・自由意見: 「化学を暗記ではなく理解させようとする先生の教え方がよかった。」	大学の授業の特徴である論理性を印象づける。			
14	・自由意見: 「スライドではなく、板書が中心で集中できた。」 「スライドがきれいでわかりやすかった。」 「スライドがあとでダウンロードできるのでよかった。」 「板書がきたない。」 「スライドをみせるだけで説明が不足している。」	スライドと板書についてはいづれも賛否両論がある。		スライドと板書それぞれの高評価な授業についての概要を担当教員間で共有する。	
15	・自由意見: 「試験範囲が広い。」 「授業とテスト問題に解離がある。」	履修項目・目標を明確にして学生に授業を行う必要がある。	常に学生からのフィードバックを受けて、授業に反映させる。		

16	・自由意見: 「非常にわかりやすい授業であつた。」 「まったくわからなかった。」		担当期間内に成績の良い学生、履修に苦労している学生のそれぞれから率直な意見を得られるように留意する。	高評価の授業だけではなく、学生評価が低い授業について情報が共有できると良い。同じ授業でも高評価と低評価が混在する場合がある。	
17	・自由意見: 「教員の質問に挙手して解答した学生に加点するという制度は、学生に知的興味・関心より下心をもって取り組むようになるので止めた方が良い。」			学生の興味を適切に惹く工夫を行うことは大切である。多様な意見が学生から出ている情報を共有。	
18	・自由意見: 「スライドが事前にELMSから取得できた。」	予習を促す工夫。	授業の資料はできるだけ早めにダウンロードする。	ELMS, Moodleを知らない教員もいるので学生の使用状況についての情報を共有する。	
19	・自由意見: 「専門用語の英訳を教えてくれたのが大学らしくて感動した。」	適切な英語使用は学生に学問の世界的な広がりを実感させる良い影響がある。			
20	・自由意見: 「わかりやすい、丁寧、親切。」 「授業が遅い。」	総合入試以来、このように両極端の評価を同時に受ける場合が多くなったが、このシステムが続く限り工夫は必要。	優秀な学生は厚みのある授業を好む。その配慮は必要なので重要度の順位付けを明確にする。	内容を多くしつつも、ついていくのが大変な学生の興味をつなぐトピックス紹介や教育法の技術共有。	
21	・自由意見: 「クリッカーが授業に沿った内容でよかった。」	双方向授業の重要性。			
22	・自由意見: 「統一のシラバスを用いると個々の先生の実態にそぐわないことが多い。」	履修内容、目標の統一性は改めて確認する。		統一性を担保した上で、教員の個性が良い方向に作用している授業についての情報を共有する。	
23	・自由意見: 「先生の研究と関連したことを紹介してくれて興味がわいた。」	適切な研究事例紹介は学生の興味を惹く上で有効。	過度の特定部局、部門のアピールにならないように配慮しつつ、北大の化学研究を履修内容の定着のために紹介する。	興味を惹く良い事例についての情報共有。	

科目名: 生物学Ⅰ・Ⅱ

1	・自由意見: 「動画やビデオを使ってイメージ豊かに解説してくれた。」	動画やビデオを使ってイメージ豊かに解説している講師は評判が良い。	動画やビデオを適宜用いる。	生物学Ⅰは生物に対する、目に見えない分子のレベルでの理解をできるようにすることも目的の重要な部分なので、目に見えない分子のリアルなイメージ化を助ける動画などの活用が有効である。	
2	・自由意見: 「教室の外に出て植物の観察をさせてくれた。」	教室の外に出て植物の観察をするなど、受講生の興味を引き出す努力は必須である。	受講生の興味を引き出す努力をする。	生物学Ⅱは多様な生物が織りなす生物界を、豊かに理解できるようにすることも目的の重要な部分なので、時には教室の外へ出て、実際の生物を見せながら解説することも有効であり、受講生にとっても刺激的である。	
3	・自由意見: 「生物学非選択者にでも分かり易く教えてくれた。」	生物学非選択者にでも分かり易く教えられる、教育力の高い講師は評判が良い。	学生に寄り添った態度で、理解の程度に応じた解説をする。	受講生の3分の2は生物学非選択者なので、生物学非選択者にも分かり易い解説を心がけるべきである。	

4	・自由意見: 「質問の時間を毎回とってくれた。」	長すぎず短すぎず、適宜、質問の時間を毎回取る教員は評判が良い。	質問の時間は必ず取るにしても、受講生を退屈させない努力をする。	パワーポイントを用いての単調な解説だけでは退屈であるので、時にはエピソードを交えた印象に残る解説の工夫も有効である。
5	・自由意見: 「質問に丁寧に答えてくれた。」	質問に丁寧に答えられる経験豊かな講師は評判が良い。	質問者が知りたいことに、的確に答える。	講義の基本は講師と受講生のコミュニケーションであることを自覚し、丁寧な解説を心がける必要がある。
6	・自由意見: 「小テストで評価してくれた。」	小テストは期末テスト一回での評価より評判が良い。	講義の進行と、習得度合いの測定をリンクさせる。	
7	・自由意見: 「説明が分かりにくく、聞き取りにくい。」	滑舌が悪い・声が小さい講師は評判が悪い。	受講者が50名を越えるような教室ではマイクを使うべきである。	受講者が50名を越えるような教室ではマイクを使うべきである。
8	・自由意見: 「パワーポイントで説明しているだけ。先生が勝手に話しているだけ。」	学生とのコミュニケーションにたけていない講師は評判が悪い。	毎回の講義中、質問の時間をとり、しっかりと解説すること。	毎回の講義中、質問の時間をとり、しっかりと解説すること。
9	・自由意見: 「メリハリが無い。」	単調な話し方や、単なる知識の伝達的な講義は評判が悪い。	毎回の講義の内容を、生物学非選択者にも分かり易くまとめたテキストを配布すること。	毎回の講義の内容を、生物学非選択者にも分かり易くまとめたテキストを配布すること。
10	・自由意見: 「高校で生物を履修している人としていない人のギャップが大きい。」	生物未履修者への配慮を重視したが、生物を履修した学生からは、高校で習った内容との重複が多く退屈との指摘が多かった。	この授業では高校で生物を履修していない学生が理解できる授業をするのは当然のことと考える。一方、最新のトピックを多く入れるなど、高校で生物を受講している学生にも飽きさせない工夫をしているつもりだが、さらに充実させたい。	
11	・自由意見: 「週4、5時間の予習を要求されたが、実行は困難であった。」	毎週、講義をする教科書の1章をあらかじめ読んでおくことを義務付けたが、多くの学生には、負担が重くして不評であった。大学における授業ではこの程度の自習は必須と私は考えており、たとえ不評であってもこれは変えることができないと考える。	学生からの不満の1つは、予習で教科書を読んでも意味がよく理解できない部分が多かったという点である。今後は、わからない点があれば、それをどのようにして調べ解決すればよいのか、より丁寧な指導を心がけたい。	より記述内容が的確と判断される教科書などの併用も必要かもしれない。
科目名:地球惑星科学Ⅰ・Ⅱ				
1	・自由意見: 「スライド(パワポ)が見づらい。」		文字を大きくする、画面の明るさを工夫するなど不満が出ていない担当教員もあり、教室のどこからでも見やすい画面表示に留意する。	
2	・自由意見: 「周りにうるさい学生がいる。」	教室の後方で講義中に他の学生への迷惑行為が特に目立つ場合がある。	教員が気づき次第、今後はその場できちんと注意することを徹底する。	
3	・自由意見: 「毎回の小テストの実施により、復習の動機付けや学習効果の把握など、役に立つ。」			実施していない開講コマでも、今後は積極的に導入する。

4	<p>・自由意見： 「講義内容のまとめの資料・レジュメが配布され、理解の大きな助けとなった。」</p>			<p>当該科目は高等学校での未修者がほぼ全員であり、また多様な分野の内容を他科目に比べて含むため、「まとめの資料」の配布は特に有効である。既に実施している場合はより細かに、まだの場合には今後は導入するように努める。</p>	
5	<p>・自由意見の大半は「良い評価」だが、質問事項「総合評点」の点数が低い。</p>	<p>当該科目のほとんど全員が高等学校まで未修であり、入学後に学習意欲・動機がしっかりしている学生にはどの開講コマも十分に応えているようである。一方で、学習意欲がなく単に単位を取るだけの学生も一定数あり(講義をまともに聴講していない)、これは他の理系基礎科目より選択としての位置付けが大きいため、と考えられる。このような学生の割合が高いため、全体の評点が他科目に比べて高くないかもしれない。</p>	<p>今後、このような学生の学習意欲を高めるための工夫を、担当教員で意見交換し、具体的な工夫を試していきたい。</p>		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【日本語科目及び日本事情に関する科目】

	質問項目への回答結果または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
1	日本語Ⅰ ・質問項目：全体	よかった点や評価された点は、今年度に関してはほぼないと考えた方がよい。ただ、学生の年度毎のレベルの変化に合わせた柔軟な対応が欠如していたと思われるので、今後はこの点について改善を図りたい。	今年度から、4月の第1回授業で実施していた「学力診断テスト」をやめたため、前年度の学生との基礎学力差を把握する手段がなかったが、今後は経過を見て再度この「学力診断テスト」を実施し、年度毎の学生のレベル差を把握できるようにすることを検討したい。	無し。	
2	日本語Ⅰ ・自由意見： 「授業を熱心にやってくれた。」 「内容が充実。」 「先生の熱意が伝わってきた。」 「熱情が感じれる授業。」 「心を込めて授業を行っている。」 「シラバスを徹底的に守って行われた。」 「学生に一人一人積極的に参加させるように聞いていた。」	教員の態度に対する評価はいくら良くても所詮は主観的な印象の範囲を出るものではない。むしろ、シラバスの通りに授業運営を行ったことに対する評価を重視したい。	シラバスの記載事項を遺漏なく実施できる授業運営に今後も努めたい。	シラバスで各回授業の実施内容を細かく公開すること、シラバス通りに授業を進行させること、到達目標を実現させることが肝要である。	
3	日本語Ⅱ ・質問項目：全般に前年度より高い評価を受けた。	おそらく、教員の授業のやり方やポリシーが履修者に浸透したことが大きいのではないかと推察されるが、なお検討を要する。	文系と理系の専門の学術論文の読解と専門のレポートの書き方の授業であるため、履修者のニーズとの一致度が高かったと思われる。今後もこの内容を継続したい。	全学教育科目段階から専門分野とのつながりを考慮した科目内容や言語知識の提供が重要であると思量する。	
4	日本語Ⅱ ・自由意見： 「先生は優しすぎるから生意気な学生の対応はやや難しかったと思う。」 「授業とは関係ないことをいつも授業中で話す。」 「世界の問題をとりあげ、日本語で理解する授業を行ってもらったらいい。」 「他のことは全部良かったんですが、『ラベリング効果』の論文はかなり難しい。」 「評価が一意的でないことがある。」	教員の姿勢や教材の内容はともかく、評価については、学生に的確に伝わらなかった点があった模様であるので、今後の反省材料としたい。	各課題に対する評価基準をフィードバックとともに履修者に文書化して配布し、今年度からは返却する課題の中に具体的に評価点を記入するようにしている。これによって履修者の作成した課題のどこがどのような基準からどのように評価されたかの可視性を高めるようにしている。	無し。	
5	日本語Ⅲ ・質問項目：全体	個々の履修者にきめ細かい対応がその場ですぐにできた点が評価された。	左記の対応を継続したい。	クラスサイズにもよるであろうが、可能な限り個々の履修者に行き届いた指導ができるようにすることが重要である。授業中でなくても、SNSやELMSの活用で授業外にデ	

				デジタルに対応できる可能性もあると思う。	
6	日本語Ⅲ ・自由意見: 「作文やレコーダーで[会話を ー引用者註]修正すること。」	授業のポリシーが履修者に 的確に理解されていた。 4技能+文法を総合的に扱 うこの授業の特質が履修者 に的確に伝わっていたものと 思量される。	左記の取り組みを継続した い。	授業のポリシーを履修者に徹 底させるよう工夫することが 望まれる。	
7	日本語Ⅳ ・質問項目:全体	口頭表現の授業であり、言 語に拘わらず、口頭表現の 授業に対するニーズは高いの が一般的なもので、それによる 押し上げ効果があったと判断 される。それだけに全体的満 足度の低下については、理 由の判断が難しい。	とりあえず従来通りの授業実 践を継続したい。	授業それ自体の枠組みで言 えば「口頭表現」であるとい うことによってそれだけで総合評 点が高くなる授業があり得 る。設問との相関関係をよく 確認して総合評点と全体的 満足度がパラレルに高まるよ う努力する必要がある。	
8	日本語Ⅳ ・自由意見: 「毎回改善したところを見せ るのが大変いい。」 「人前で以前より話すことが 上手になった。」	授業のポリシーを履修者によ く理解して取り組んでもらえ た点良かった。 この授業の、専門のための口 頭表現演習としての授業の 性格を履修者がよく捉えて 努力してくれた結果であると 判断される。	左記の取り組みを継続した い。	授業のポリシーを履修者に徹 底させるよう工夫することが 望まれる。	
9	日本事情 ・質問項目:全体	座学と見学を組み合わせ ていることが高い評価につな がっていると考えられる。	現状の取り組みを継続する。	講義、発表によって事前に 知識・観点を整理した上で 見学を行うこと、及び振り返 りの討論を行って短いサイ クルでまとめをさせることは効 果的であると思われる。	